

令和3年度 沖縄県教育委員会研究指定校

県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトII〈方策1・3〉

研究報告



金武町立嘉芸小学校

〒904-1203 金武町字屋嘉1470番地

電話 (098) 964-2004

FAX (098) 964-6940

E-mail: kagei@seagreen.ocn.ne.jp

目次

はじめに

I 嘉芸小学校アクション・プラン

II 学力向上推進「学校デザインシート」

III 校内研究の概要

1 研究の全体構想図

2 研究組織図

3 校内研究年間計画

IV 研究の実践報告

V 授業プランシート

1 1年国語科「生きものクイズ大会をしよう」

2 1年特別活動「はなまる達成会をしよう」

3 2年国語科「くりかえしのあるお話を読んで、おもしろさを伝えよう」

4 2年国語科「クラスお楽しみ会をひらこう」

5 3年国語科「わすれられないおくりもの」

6 4年国語科「大事な言葉や軍に気をつけて要約しよう」

7 5年国語科「作品の魅力を交流し、宮沢賢治作品を読み広げよう」

8 6年算数科「円の面積」

9 6年国語科「随筆を書こう」

10 特別支援学級低学年部 特別の教科 道徳「自分のスギちゃんを見つけよう」

11 特別支援学級高学年部 特別の教科 道徳「自分のすぎちゃん」



はじめに

新型コロナウイルス感染症による社会の混乱。グローバル化や人工知能の飛躍的な進歩など激しく変化する社会において、学校は「一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を尊重し、協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる」児童を育成することが求められています。

嘉芸小学校アクションプランでは「授業改善・地域連携・凡事徹底」をテーマに掲げ、全職員一丸となって「確かな児童理解」「支持的風土づくり」の基礎固めから「主体的・対話的で深い学び」の実現に向き合い、質的授業改善を推進することでテーマに迫れるよう教育活動を展開してきました。

令和3年度は沖縄県教育委員会研究指定校 沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ（方策1「質的授業改善」・方策3「発達の支援」）として指定を受け更に学校改善・授業改善を推進しているところです。

本校校内研修の研究主題は「自力で読み取る子の育成」～「基本的な言語の習得」と「学び合い」の手法を通して～と題し、学びの質を向上させるべく取り組んでおります。

研究実践においては、授業改善推進教師が配置された国語科を中心に、特別支援教育の視点、生徒指導的視点、諸学力調査の結果やQ Uアンケート等の分析・考察、ユニバーサルデザインの原則等を絡めながら、理論研修を中心に授業実践、リフレクションを通して授業改善を図って参りました。

研究は、いまだ道半ばではありますが一定の成果と課題を皆様と共に再確認する機会と捉え、更に研鑽を深めてまいりたいと考えております。今回は紙面での報告となりましたがお気づきの点がございましたら忌憚のないご指導、ご鞭撻を頂ければ幸いに存じます。

本研究を進めるにあたり、深甚なるご指導・ご助言を賜りました沖縄県教育委員会、国頭教育事務所、金武町教育委員会、並びに関係各位の皆様に対し衷心より御礼申し上げますと共に、日頃より本校教育活動を温かくご支援くださる保護者、地域の皆様、関わられたすべての方へ感謝申し上げますご挨拶といたします。

令和4年1月19日



金武町立 嘉芸小学校
校長 島袋 洋

令和3年度 嘉芸小学校アクションプラン

～授業改善・地域連携・凡事徹底～

金武町立嘉芸小学校

関連法規

- ◎教育基本法
- ◎学校教育法
- ◎学校教育法施行規則
- ◎地教法
- ◎学習指導要領
- 「生きる力」の育成
- 国頭教育フロンティアビジョン
- 金武町「雄飛」プラン

児童の実態

- ・異年齢集団の充実
- ・体験学習の充実
- ・読書平均冊数（107冊）
- ・漢字検定合格者（131名）
- 基礎学力の定着が弱い
- 読解力に個人差がある

【学校教育目標】

進んで学ぶ子（知）
心豊かな子（徳）
たくましい子（体）

最重点事項

PPⅡ方策3支える【発達の支援】支持的風土づくりで発達の支援充実

豊かな心の育成

- 道徳の授業の充実
- 5つのいっぱいの徹底（花・読書・あいさつ・学び・思いやり）
- 規範意識・マナーの育成
- 人権教育の充実
- ボランティア活動の推進
- 体験的活動の充実

確かな学力の向上

- 授業改善を中核に据えた
学びの5つのサイクル
- ①授業改善（分かる授業）
 - ②パワーアップタイムの充実
 - ③読書の充実
 - ④補習指導・放課後指導
 - ⑤授業と連動した家庭学習の充実

健やかな体の育成

- 学校体育の充実
- 6つの凡事徹底（早寝・早起き・朝ごはん・挨拶・返事・くつならべ）
- 給食・食育の充実
- 安全・安心な学校（防災教育の推進）

学校組織の活性化

- ① 授業改善を図る校内研修「主体的・対話的で深い学び」の実現（アクティブラーニング）
- ② 教職員評価システム
- ③ 週案による教育課程の質・量の充実
- ④ 学校経営方針の説明・報告
- ⑤ ホームページの充実
- ⑥ 積極的な授業公開
- ⑦ 学校評価の機能化

校長の役割

- 1 学校課題の解決
- 2 PDCA マネジメント
- 3 リーダーシップ
- 4 組織運営（信頼・協働）

教育目標の実現

児童の望ましい変容
特色ある学校づくり

家庭・地域連携

- ①家庭学習の習慣化（3つの種づくりの活用奨励）
- ②漢字検定（放課後対策講座への協力）
- ③基本的な生活習慣の確立
- ④朝の読聞かせボランティア
- ⑤交通安全立哨
- ⑥5学年田植え体験支援
- ⑦地域子ども会活動（新潟県との交流活動）
- ⑧ふるさとの歌

信頼される学校

様式1 令和3年度版 学力向上推進「学校デザインシート」

本校のカリキュラムの特徴
英語教育課程特例校として小1からの英語活動が実施されている

学校名	金武町立嘉芸小学校
校長名	島袋 洋

学校教育目標 <input type="radio"/> 進んで学ぶ子（知） <input type="radio"/> 心豊かな子（徳） <input type="radio"/> たくましい子（体）

〈本校で育成する児童生徒の資質・能力〉 <input type="radio"/> よく考え、自ら学ぶ意欲と実践力を育てる <input type="radio"/> 思いやりと感動する豊かな心を育てる <input type="radio"/> 心身ともに健康でねばり強いたくましさを育てる
--

〈目指す子供の姿〉 <input type="radio"/> 考えて工夫し、学習を深める子 <input type="radio"/> いつでもどこでもあいさつのできる子 <input type="radio"/> 元気いっぱい運動能力を伸ばす子
--

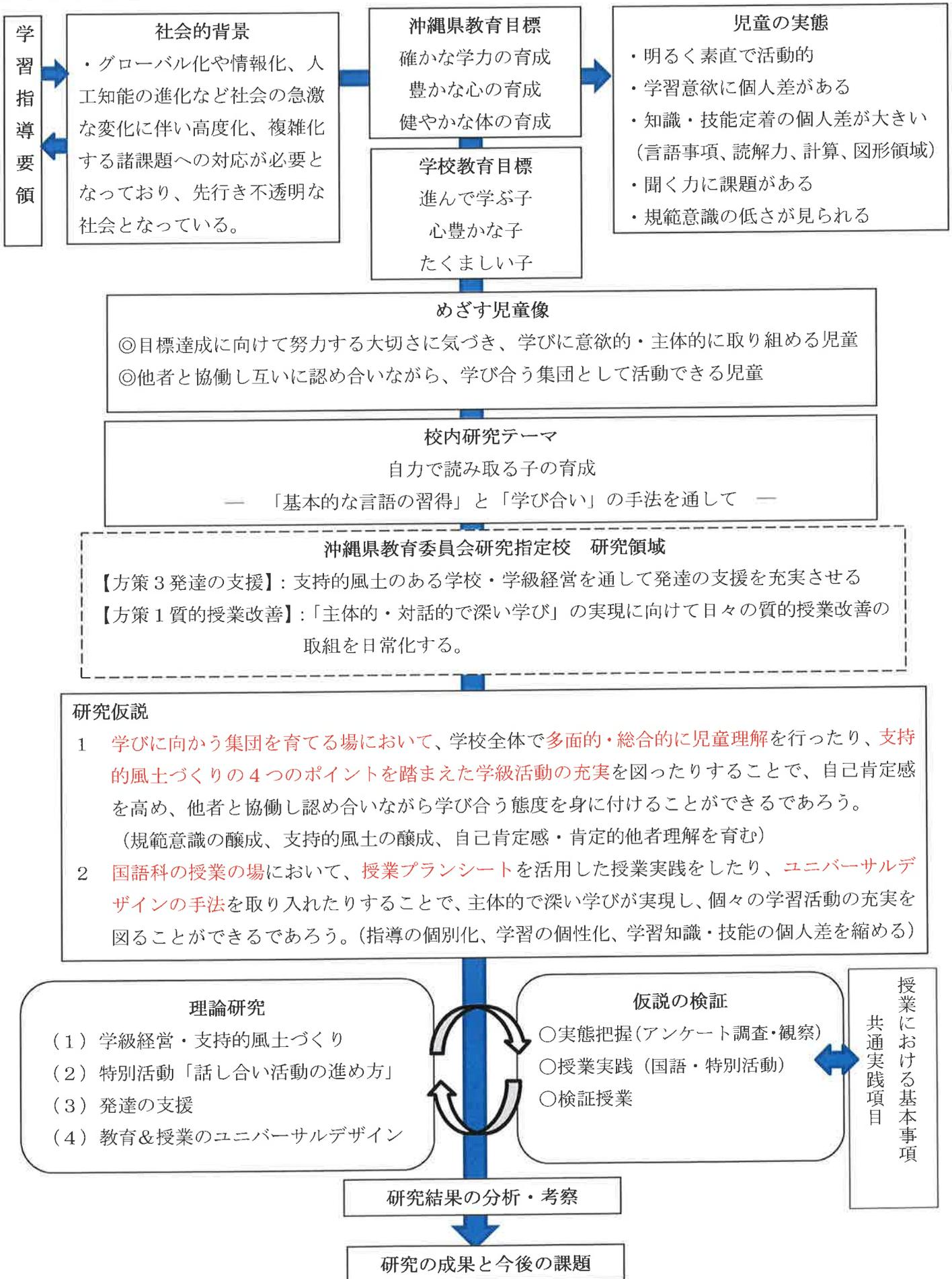
学びの質を高める授業改善・学校改善の推進

【校内研究テーマ】

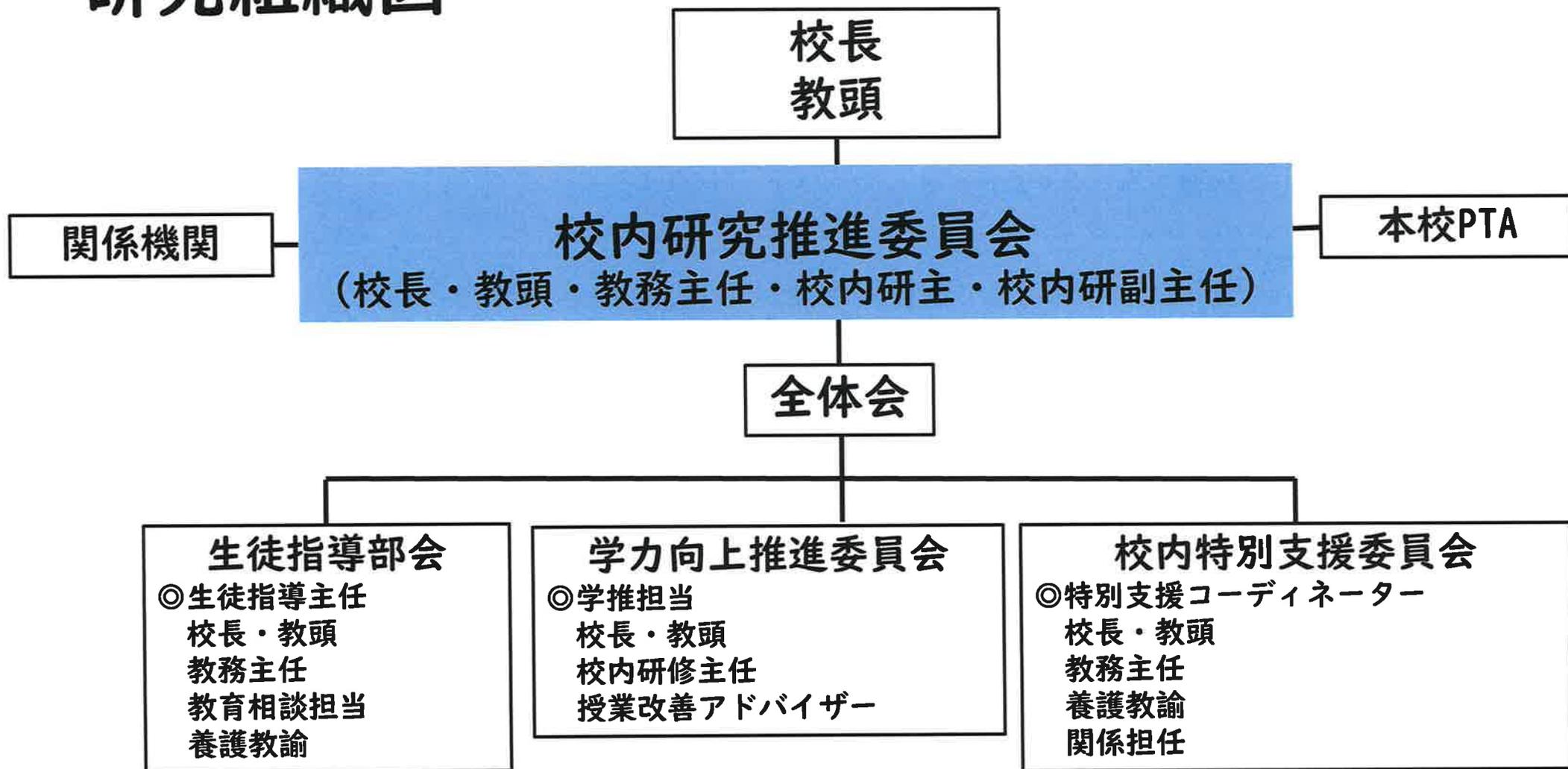
自力で読み取る子の育成 ～「基本的な言語の習得」と「学び合い」の手法を通して～

	視点1 自己肯定感を高める	視点2 学び・育ちの実感	視点3 組織的な関わり
自校の課題	▲自分の良さに気づけなかったり、他人の良いところを認め称賛する雰囲気弱い。	▲日頃の学校生活や学習したことが自分自身の成長につながっている実感が持てる場面が少ない。	▲確かな児童生徒理解、支持的風土づくりの面で共通認識、徹底できないことがあった。
方策1 日常化する 【質的授業改善】	①生徒指導3つのポイントを生かした授業を日常化するとともに、学ぶことの意義や価値を実感する機会を増やしていく。 ②授業改善アドバイザーを効果的に活用し教師の授業実践力を高める。		
方策2 そろえる 【組織的共通実践】	①パワーアップタイムや読書を充実させ「学習の基盤となる資質・能力」の育成 ②「よい子のきまり」や学習規律を徹底する。 ③教職員間による目指す子ども像の共通理解を図る ④嘉芸小学校の5つの約束から「返事」「姿勢」「ノート指導」を徹底する。		
方策3 支える 【発達の支援】	①諸調査や複数の教諭らによる広い視野からの確かな児童生徒理解に務める。 ②支持的風土づくりの4つのポイント安心・所属・承認・自立を踏まえた活動の充実を図る ③授業における基本事項や、問いが生まれる発問の工夫を教卓の上にも置いて意識づけていく嘉芸小の学習の進め方「めあて」は「まとめ」から考え、「めあて・まとめ・ふりかえり」の確実な実施。		
方策4 見通す 【学校組織マネジメント】	①学力向上推進プラン・プロジェクトⅡを活用し、学校課題解決に向けた組織マネジメントの機能を高める。 ②基礎的なドリルや読書の共通実践		
方策5 つなぐ 【学校連携・地域連携】	②学校・家庭・地域・行政の互恵的関係の構築に努める。		
診断重点項目	①児童が自分のよさや可能性を認識することができたか	②児童が学ぶことの意義や価値を実感し資質・能力を伸ばすことができたか ③嘉芸小学校5つの約束が達成できている。	④組織的・計画的に教育活動の質の向上を図ることができたか。 児童がどういった力がついていったかという学習の成果を的確に捉え教師が指導の改善を図り児童が自ら学習をふりかえり次の学習にむかえるようにする。

研究の全体構想図



研究組織図



校内研究年間計画

		Plan 計画・理論 4月～6月			Do実践 7月～10月			Check 評価・検証 11月～1月		Action取組の改善実施 2月～3月			令和4年度へ
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日		①4/2 ②4/14 ③5/12理論研修 ④6/9 ⑤6/30			① 7/28理論研修 ②8/19 ② 9/8理論研修 ④10/13			① 11/10 ②11/24 ② 12/8 ④12/22		① 2/9 ② 3/9			
発達の支援		<ul style="list-style-type: none"> 特別支援・発達障害支援の方法 ユニバーサルデザインの授業 特別支援学級（知的・情緒）通級教室についての理解（全児童向け）脳の引き出し 生徒指導「よいこのきまり」 			<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画 学級力向上アンケート実施 教師用自己評価アンケート実施 いじめ防止指導 特別支援学級担任による授業実践「自分のすぎちゃんをみつけよう」 通級指導教室授業観察会 			<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画見直し 学級力向上アンケート教師用自己評価アンケートの評価・分析 		<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画 保護者面談 次年度引継資料作成 			
質的授業改善		<ul style="list-style-type: none"> 研修計画の共通確認 前年度各種テスト分析結果確認 学習規律（板書・教科ノート） パワーアップ、読書タイム 授業研究会・指導案形式確認 カリキュラムマネジメント作成 			<ul style="list-style-type: none"> 7月：研究授業の実施（低・中・高各代表3人） 10月：研究授業の実施（低・中・高各代表3人） ⇒隣学年同士で授業観察の後、授業研究会を実施 <ul style="list-style-type: none"> 各種テストの実施と分析 「学びのたしかめ①」「全国学力状況調査」 取組のふりかえり（1学期 評価・反省） 			<ul style="list-style-type: none"> 各種テスト分析「学びのたしかめ②」 取組のふりかえり（2学期 評価・反省） 		<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県学力到達度調査分析 研究の成果と課題 次年度計画 カリキュラムマネジメント 			

令和3年度沖縄県教育委員会研究指定校

方策1 「質的授業改善」

方策3 「発達の支援」



金武町立嘉芸小学校 実践報告

研究領域・項目

〈方策1〉 質的授業改善

- ➡ 「主体的・対話的な深い学び」の実現に
おいて日々の質的授業改善の取り組みを
日常化する



「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点の授業改善を進めるには、県の目指す授業像を共有し、目指す子供の姿に向かって児童理解を深め、学びを支援する必要がある。

研究領域・項目

〈方策1〉 質的授業改善

- ①児童が学んだことの意義や価値を実感し、自己肯定感を高める個人内評価等の取り組みを日常化する。
- ②生徒指導の3つのポイントを生かした授業を日常化する。
 - 自己存在感を与える・・・自分の良さを生かし、興味関心を高めるような授業を展開する。
 - 共感的な人間関係の育成・・・互いの考えを交流し互いのよさを学び合えるような授業を展開する。
 - 自己決定の場を与える・・・主体的に学ぶことができるような課題の設定や学び方について、自ら選択できるような授業を展開する。
- ③資質・能力を育むために、単元を見通した授業改善を日常化する。

研究領域・項目

〈方策3〉 発達の支援

➡ 支持的風土のある学校・学級経営を通して発達支援を充実させる研究



日ごろから確かな児童理解に基づいた学校・学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係や集団作りを進め、組織として支持的風土醸成を図り発達を支援する。

研究領域・項目

〈方策3〉 発達の支援

① 確かな児童理解

全職員で児童の状況を評価・分析する場を設定し、諸活動のマネジメントサイクルに生かす。

② 支持的な風土をつくる学校・学級経営の充実

支持的風土づくりの4つのポイント「安心」「所属」「承認」「自立」を踏まえた諸活動の充実を図る。

③ 学びに向かう集団づくり

児童の組織的な活動を大切にした学級活動や児童会活動の充実を図る。

研究仮説

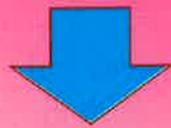
仮説1 学びに向かう集団を育てる場において、学校全体で多面的・総合的に児童理解を行ったり、支持的風土づくりの4つのポイントを踏まえた学級活動の充実を図ったりすることで、自己肯定感を高め、他者と協働し認め合いながら学び合う態度を身に付けることができるであろう。



〈方策3〉発達の支援 との関わり

研究仮説

仮説2 国語科の授業の場において、授業プランシートを活用した授業実践をしたり、ユニバーサルデザインの手法を取り入れたりすることで、主体的で深い学びが実現し、個々の学習活動の充実を図ることができるであろう。



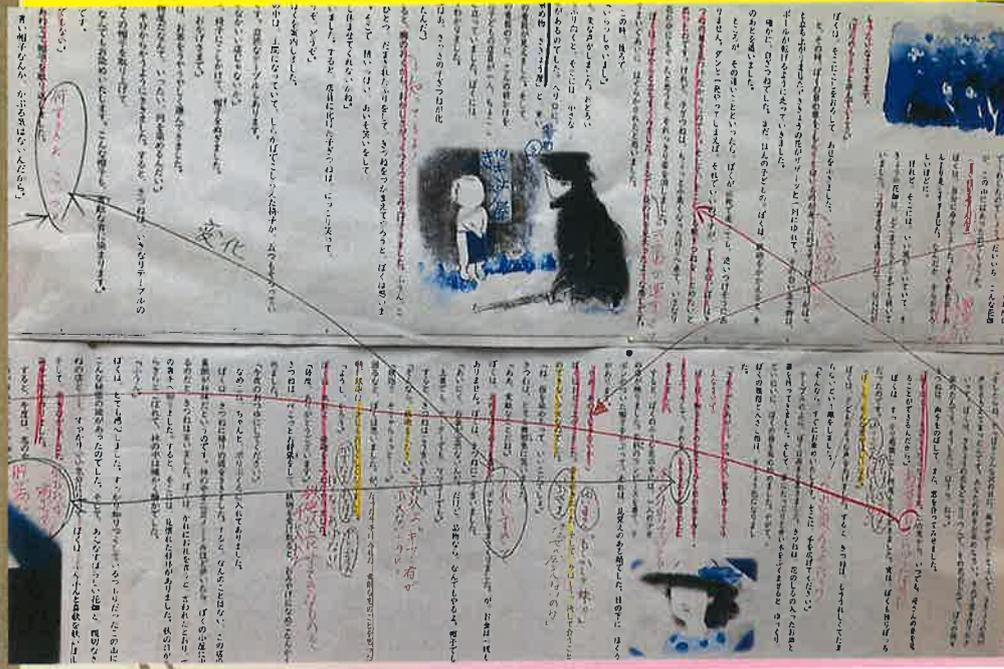
〈方策1〉質的授業改善 との関わり

具体的取組

～方策1について～

- 国語科を柱に授業改善を推進し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取り組む。
- 授業改善推進教師による参観授業やT.T授業、授業公開等により、生徒指導の3つのポイントを生かした授業の日常化を目指す。
- 毎時間、毎単元での「ふりかえり」を重視し、自己肯定感を高めるよう努める。また、児童の自己評価と教師の個人内評価とを関連させて、学習指導の充実を図る。
- 教材研究や互見授業後のリフレクションを充実させ、単元を見通した授業改善の日常化を図る。

「主体的・対話的で深い学びの実現」 に向けた取り組み



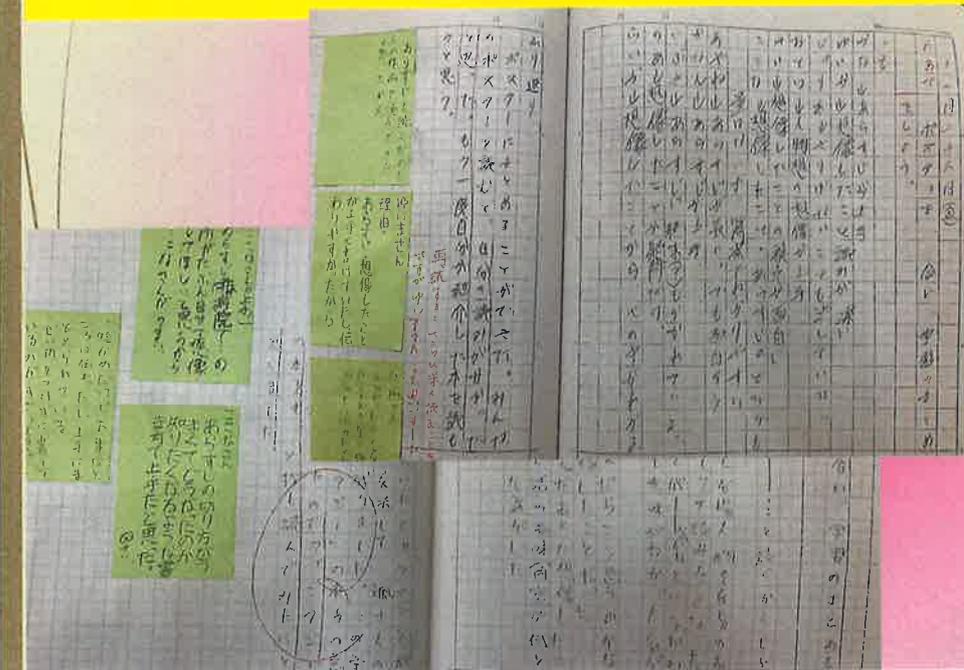
文学的な文章の精査・解釈の力を身に付けるために、全文シートを活用。



★複数の叙述を結び付けながら、登場人物の性格や考え方などを総合的に判断し、人物像を具体的に想像する。

★自他の意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの考えの良さを認め合ったりすることで、自分の考えを広げる。

「主体的・対話的で深い学びの実現」 に向けた取り組み



児童が学びの意義や成果を実感し、自己肯定感を高めるために、単元の振り返りを充実させる。



★一単位時間の振り返りは勿論のこと、単元全体を通してどのような力が身についたのか自己評価させることを大切にする。

★学習の成果を互いに共有し、感想を交流することで、自己肯定感を高め、次の学習への意欲付けへと繋げていく。

生徒指導の3つのポイントを生かした授業



〈方策3〉との関わりにおいて、授業の中で互いに学び合う場を意図的に設定した。自分の考えを形成したら、それを他者へむけて発信する。互いの考えの交流から新たな学びを得たり、新たな問いが生まれたりと、深い学びへと繋げるきっかけになった。

生徒指導の3つのポイントを生かした授業



特別活動等で得た話し合い活動の経験をもとに、教科学習においても考えを交流させたり合意形成を図りながらグループの意見をまとめたりするなどの活動を行った。

教材研究の充実



うわばきマーク あみり

○このマークは学校のなかでみれるマ
ークです。うわばきはきれいにそろえま
す。うわばきのマークです。

○うわばきがちゃんとたの中に入ること
えられてるのできれいにうわばきをこ
とのえなごころうわばきのことかかりますね。

○耳かき小学校のみなさんうわばきと
このえなごころも自立しますよ。そうならな
うわばきをきれいにうわばきのことか
けて



非常口のマーク

この絵文字は、体育館出入口の上
きゅうけいのはしからうわばきを
出入口から走ってにげて、くんの
うわばきもとりにもうわばき
つの特長の第三の特長です。

私は、外出先でははじめてのマークがあ
ります。はせなり地んや入事がおきた時
自分の安全と命を守ることをすると思



これは、教師のモデルを参考にして、児童が作成した成果物である。どの
ように書いたらいいのかわからないのか、どのようにまとめた方がいいのか、児童にとつて
は具体的に示されたモデルがいいヒントになったことがわかると思う。

リフレクションの実際

- ➡ 単元全体における本時の位置づけ ⇒ 単元のゴールに向かって、本時はどのような力を身につけるための授業だったか。そのために位置づけた活動は適切だったか。
- ➡ 生徒指導の3つのポイントを生かした授業 ⇒ 自己存在感を与える・共感的な人間関係の育成・自己決定の場を与える、という3つのポイントを生かした授業だったか。
- ➡ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業 ⇒ 「授業における基本事項」を意識した授業であったか。特に、児童の学習状況の見取りが適切に行われていたか。

リフレクションの実際

- ➡ **「問い」が生まれる授業** ⇒ 「問い」を生活と結びつけるなどして、自分事として捉えさせたり、見通しを持たせたりしていたか。
- ➡ **思考を広げる発問** ⇒ 個々が「考えの形成」を行うための時間が十分に確保されていたか。思考をゆさぶる発問がなされていたか。
- ➡ **次時の学習につながる「問い」** ⇒ まとめ・ふりかえりを確実に
行い、次時の学習につながる新たな「問い」を引き出していたか。また、個々の学習状況の見取りができていたか。

リフレクションの実際

- ➡ リフレクションを充実させることで、**次時の授業の質的改善**を目指す。
- ➡ 「身につけたい力を身につけることができる授業であったか」をリフレクションの柱に置き、**個々の資質・能力を育むこと**を目指す。
- ➡ 課題については、次時までには改善すべきことと、長いスパンを見通して改善していくこととを区別して、**課題改善に向けた取り組みを具体化**する。

具体的取組

～方策3について～

- ▶ 全職員で児童の様子を観察し、情報を共有することで、確かな児童理解に努める。
- ▶ 教育相談の充実を図り、支持的風土のある学校・学級を目指す。
- ▶ 「学級力向上アンケート」を実施して、学級活動の実態を知る。
- ▶ 学級会（話し合い活動）を意図的・計画的に行い、学びに向かう集団作りを目指す。

ア 多面的・総合的な児童理解

(1) 理論研修

＜理論研修①授業・教育のユニバーサルデザイン
講師：県総合教育センター特別支援教育班 西田敦子指導主事＞



○授業UD化14の視点，UDの7原則，人的環境のUD化等について学ぶ。



○トークンカード
「共感・集団肯定感」を全職員で体験。

<理論研修② Q-Uデータをどう生かすか>

講師：南風原町教育委員会 城間 智 指導主事



- Q-Uデータ分析資料の**見方**
- 具体的指導方法
- 支持的風土**のある学級づくり

<理論研修③ いじめの認知について>

講師：金武町教育委員会 宮平 光二 指導主事



- いじめの判断, 具体的ないじめの**態様**
- 不登校について
- 学校・教職員の役割, 責務**

<理論研修④ すべての子が楽しくわかるできる授業デザイン>

講師：琉球大学附属小学校教頭
日本UD学会理事 沖縄UD県支部代表 小島哲夫氏



- 授業の**ユニバーサルデザイン**とは「授業のねらいを明確にする**授業づくりの工夫**である。3本柱「**焦点化・視覚化・共有化**」
- 教材に**しかけをつくる**。○特別支援の**視点**

<理論研修⑤ 支持的風土のある学級づくり>

講師：琉球大学教育学研究科 丹野清彦 教授



- 自己肯定感と**インクルーシブ**
- 子どもが**出番のある授業**。○子ども**同士の関わり**をふやす。
- 子どもを**認める・ほめる** (**ほめ言葉**を決めておく)
- 子どもの**ライフストーリー**を知る。

<理論研修⑥ 生徒指導について>講師：本校生徒指導主任 馬場 弘光 教諭



- 積極的生徒指導と消極的生徒指導の意義
- 学力向上と生徒指導の両輪ですすめていく。
- 全職員で共通理解・共通実践していく重要性



「グループワーク」

◎教師一人一人が、きまり・生徒指導の意義について考える

★以下の生徒指導重点実践事項4つを守らせることの良さとは？

★守らせるための手立ては？

「嘉芸小学校生徒指導重点実践事項」

- 1 自ら進んであいさつをする児童の育成
- 2 上履きをきちんと履く児童の育成
- 3 靴を靴箱にきれいに入れる児童の育成
- 4 トイレのスリッパをきちんと並べる児童の育成

<生徒指導理論研修 職員のふりかえり記録より抜粋>

●まずは、教師の意識から変えていく・見る⇒声掛け⇒見届ける

- 子ども達に守らせる、徹底させることの意味（意義）について考えてこなかったことに気づかされた。なぜ、あいさつするのか、くつをならべるのか、その価値づけをすること（子ども達に伝えること）から始めていきたい。
- 日常のとりくみについて、全職員で共通理解できて、みんなで実践していこうという確認ができたことは、大きな成果だと思う。しっかり実践にうつして、児童・職員一体となっていきたい学校にしていきたい。
- 自分のクラスだけでなく、どの児童にも。子ども達に言うだけでなく、教師自身の確認も。私たちの本気！
- 日々の学校生活について、先生方一人一人が主体的に意見を出し合い、嘉芸小の子ども達のために考えることができてとても良かった。
- 周りの先生方の意見を聞いて、自分の指導の幅を広げたり、みとり方（捉え方）の視点をふりかえったり指導の効果を考えたりすることができました。

確かな児童理解を目指した職員間の情報交換



(2) 学級力向上アンケート実施・分析

●学級力向上アンケートとは

学級の子どもたちの集団の実態を担任教師が診断するとともに、子どもたちがこのアンケート結果を活用して、自分たちの力でよりよい学級を作るための資料を収集することをねらいとして行うものである。

学級力向上アンケート

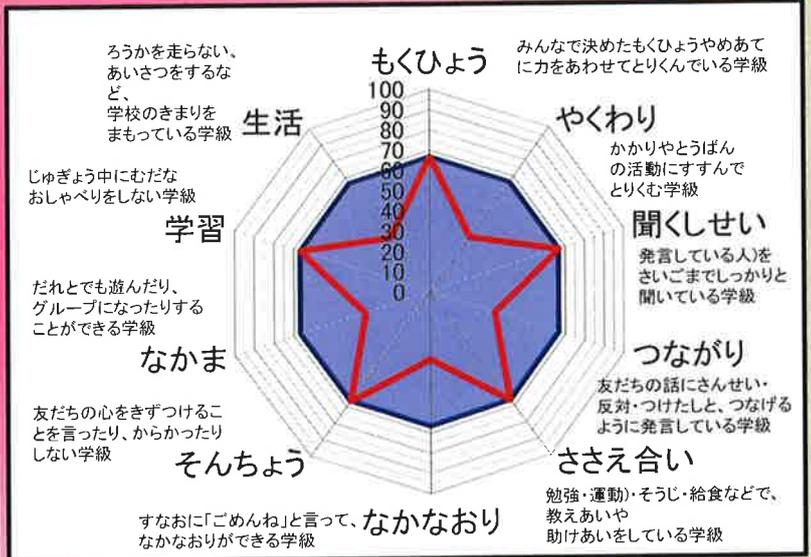
学年 () 月 () 日

氏名 ()

① 私たちの学級について、それぞれの文の4～1の数字に一つずつ○をつけましょう。

4:とてもあてはまる 3:少しあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない

やりとげる力	① 全員 みんなで決めたもくひょうやめあてに力をあわせてとりこんでいる学級です。	4-3-2-1
② 全員 かりやとうぼんの活動にすすんでとりこむ学級です。	4-3-2-1	
話をつなげる力	③ 聞く・話す 話を聞いて相手の話をさいごまでしっかりと聞いている学級です。	4-3-2-1
④ つながり 互いの意見に賛成・反対・つけたしと、つなげるように発言している学級です。	4-3-2-1	
あきらめあきらむ力	⑤ 先生・児童・保護者・先生など、教えあい助けあいをしている学級です。	4-3-2-1
⑥ 校長 「ごめんね」と言って、なかなかおろが出来る学級です。	4-3-2-1	
みんなを生きる力	⑦ 先生 互いの心をききつけることをまったり、からかたりしない学級です。	4-3-2-1
⑧ 児童 だれとでも遊んだり、グループになつたりすることができる学級です。	4-3-2-1	
自分をまもる力	⑨ 先生 じゆぎょう中にむだなおしゃべりをしない学級です。	4-3-2-1
⑩ 児童 ろうかき走らない、あいさつをするなど、学校のきまりをまもっている学級です。	4-3-2-1	



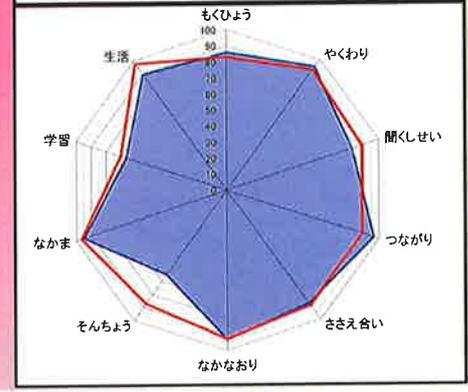
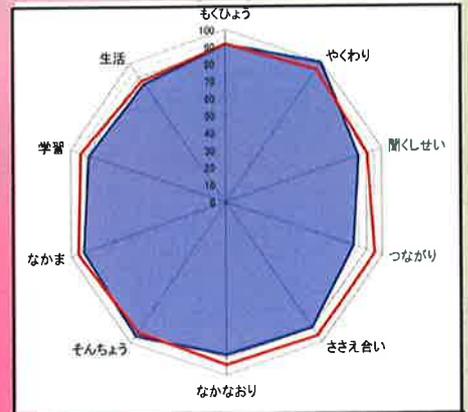
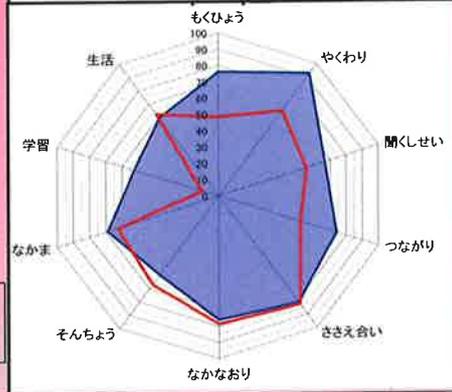
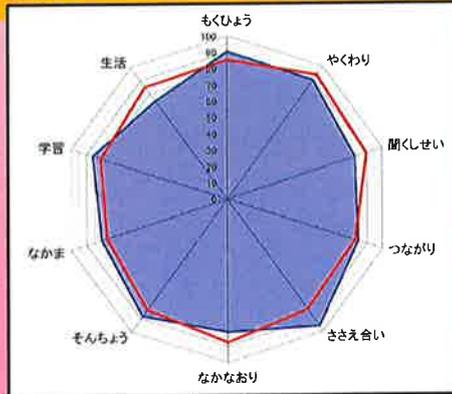
○アンケート用紙 (中学年用)

各学級のアンケート結果レーダーチャート

<低学年>

10項目

- ・ もくひょう
- ・ やくわり
- ・ 聞くしせい
- ・ つながり
- ・ ささえあい
- ・ なかなおり
- ・ そんなちょう
- ・ なかま
- ・ 学習
- ・ 生活

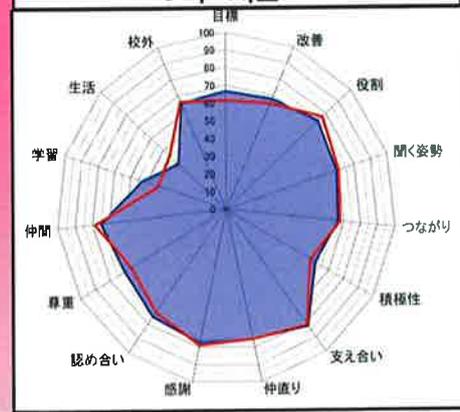
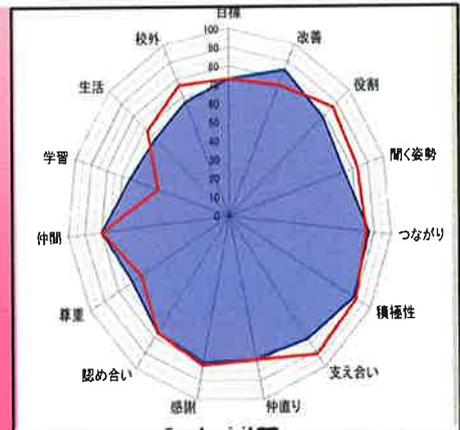
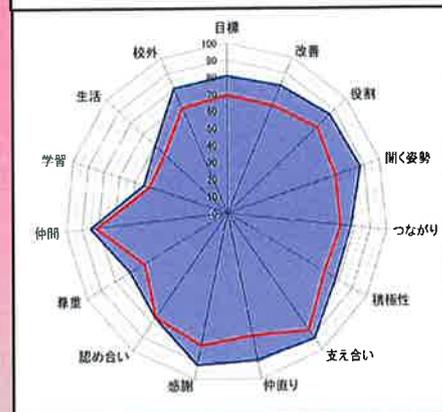
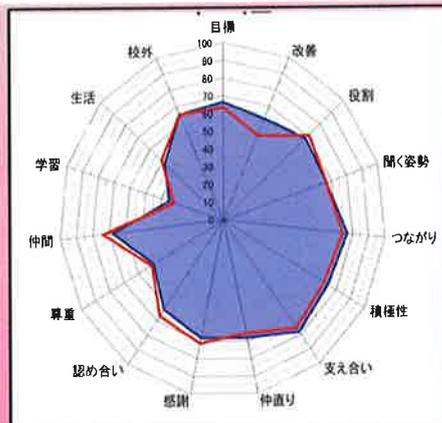


— 第1回 9月実施
— 第2回 12月実施

<高学年>

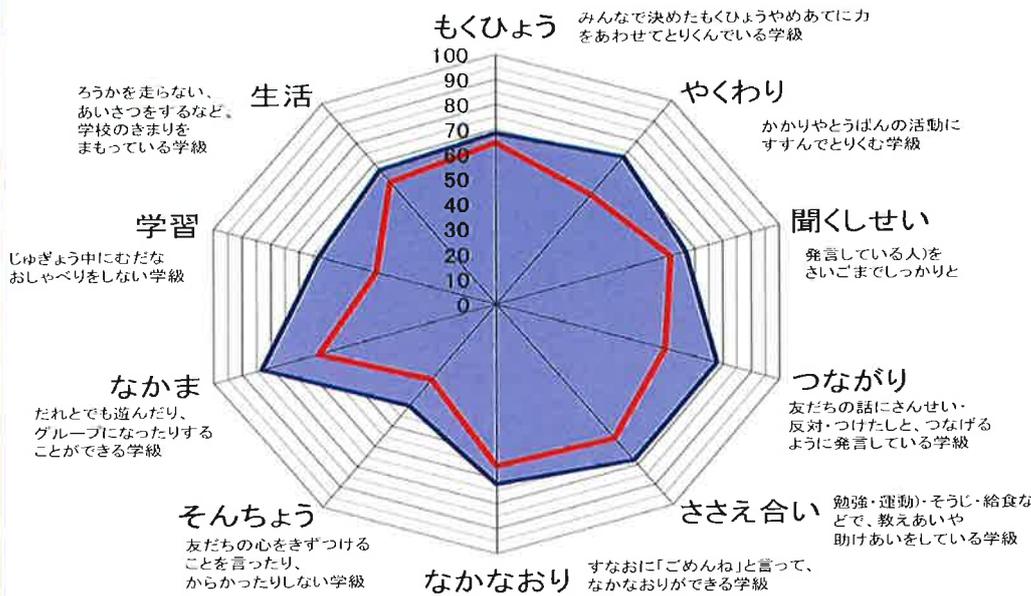
15項目

- ・ 目標
- ・ 改善
- ・ 役割
- ・ 聞く姿勢
- ・ つながり
- ・ 積極性
- ・ 支え合い
- ・ 仲直り
- ・ 感謝
- ・ 認め合い
- ・ 尊重
- ・ 仲間
- ・ 学習
- ・ 生活
- ・ 校外



— 第1回 9月実施
— 第2回 12月実施

<学級力向上アンケート 3年1組>



<考察>

- 第1回に比べて、どの項目においても全体的に学級力が向上してきている。
- 特に「なかま」「つながり」「学習」がのびてきている。支持的風土の醸成が「学びに向かう集団作り」「学力向上」にも影響していると考えられる。

△「そんなちよう」の項目が低い。

→言葉遣いなど規律を整える。さらに1人1人役割をもたせ、輝ける場（自己肯定感）を高めることのできる学級経営が必要。

第1回 9月実施
第2回 12月実施

どの学級においてもアンケート実施後には、担任と児童が共同でアンケートの分析・考察を行い、支持的風土のある学級づくりに活かしている。

学級力向上アンケート全体考察

- ▶ 支持的風土4つのポイントを意識した学級活動の取組の結果として、徐々にではあるが、ほぼ全ての学級で学級力向上の結果が得られた。
- ▶ 学年が上がるにつれて「生活」「学習」項目での落ち込みが顕著になっている。今後も児童の規範意識や自己肯定感を高めていく活動の充実を図っていく必要がある。

<支持的風土づくり4つのポイント>

1 安心（規範意識を育む）

児童が安心して学校生活を過ごすために規範意識を醸成する。きまりの意義や価値を児童が実感することが大切。

2 所属（主体性・協同性を育む）

安心できる集団の中で、他者へ貢献したり、他者と協働して何かをやり遂げる機会・自治的な活動が展開できる環境を意図的にしかけ、主体性や協同性を育む。

3 承認（自己肯定感）

授業中や様々な活動の場面で、1人1人の努力や成長、貢献を丁寧に看取り、具体的に承認、勇気づけのメッセージを伝えることが大切。

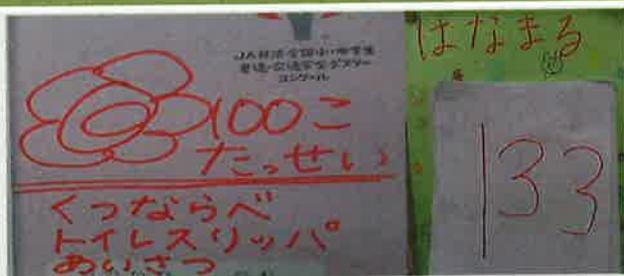
4 自立（目的意識・メタ認知能力を育む）

承認を通して気づいた自分の良さや可能性をもとに、将来の夢や希望、そのための具体的な目標を設定することで、目的意識を育むことが大切。日々の学級活動や授業、行事における「めあて」と「ふりかえり」を行う。自己の成長がみえる。

<イ 支持的風土づくり4つのポイントを意識した学級活動 >

(1) 低学年：1年

承認



説明

○毎日の給食時間に、生活委員がチェックし、放送（報告）する「くつならべ」「トイレのスリッパ」「あいさつ」で学級の児童がよばれたら、カレンダーにチェックを入れる。花丸の総計も掲示（視覚化）することで「協働性」が高まる。

⇒次の行動への「意欲・主体性」が高まる。児童自身の成長や可能性を認識できる取組。



低学年：1年

所 属



説 明

- 学校生活**が楽しくなる活動**を学級で考え、アイデアを出し合って話し合う。
- 話し合い活動を通して、係を決める。
 - ・よみきかせ
 - ・おたん生日
 - ・めいろ
 - ・朝レク・イベント
 - ・クイズなぞなぞ
 - ・おりがみ
- 係分担や活動の内容やめあてを教室に掲示（視覚化）する。
- 登校後や休み時間、放課後を利用して、準備や練習をして、朝の会や帰り会、給食時間に係活動の時間を設定して取り組む。
- 自ら楽しんで活動し、**主体的に他者と協働して何かをやり遂げようと取り組む姿が見られた。**

低学年：1年

安 心 ・ 所 属

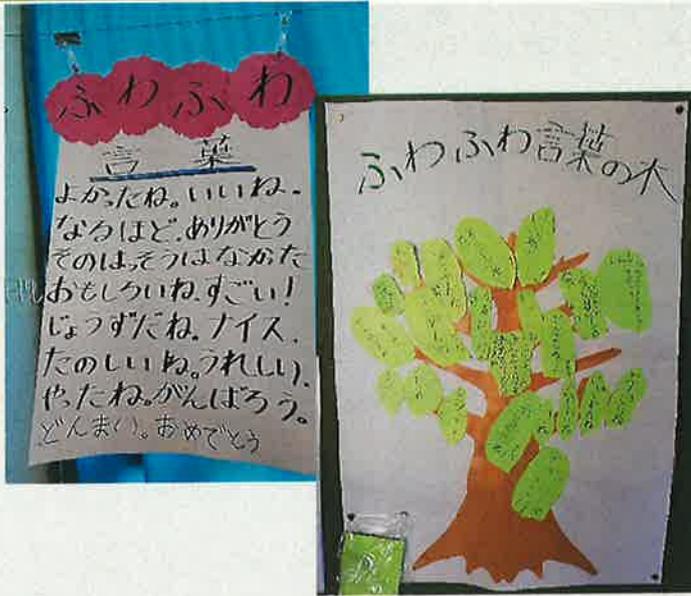
説 明



「話し合い活動」が計画的に行われている。司会グループの提示などの常時掲示から一人一人が役割をもって学級活動に参加していることがわかる。

低学年：2年

安 心



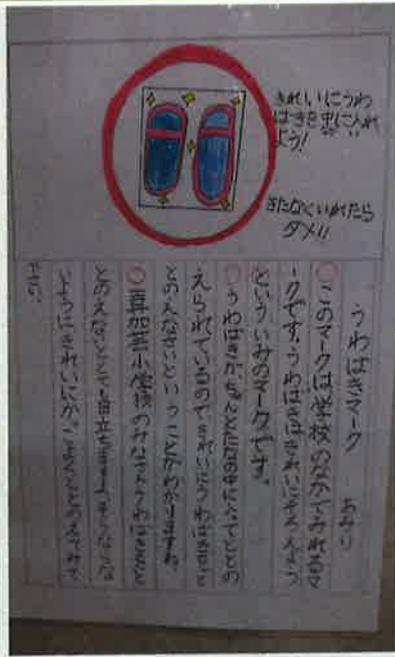
説 明

○担任が作ったふわふわ言葉の掲示物（上の写真）
 QUや学級力向上アンケートの結果で、「友だちに乱暴なことをされることがある」や「友達の心を傷つけることを言ったり、からかったりしない学級です」のスコアがいつも低く、言語環境が整っていないことが気になり、作成、掲示をした。

→児童が作成したふわふわ言葉の木（下の写真）
 子どもたちの中から、「言葉遣いをなおしていきたい」という意見が多く挙げられた。話し合いを行い、ふわふわ言葉の木を作成することになった。自分たちでふわふわ言葉を見つけて、前に掲示することで、この言葉をつかおうという意欲が見られた。

中学年：3年

安 心 ・ 所 属



説 明

○国語「くらしと絵文字」の学習と関連づけて、自分たちの学校に必要な絵文字について考えた。

○トイレのスリッパをならべる、くつばこの中にはきものの（うわばき）かかとをそろえて入れることをがんばらなければならないと話合いの中で決まり、左写真のような絵文字を作成する児童がいた。

○他にも、規範意識を高めるような絵文字を児童同士で考え、いくつかの絵文字を作成した。

→児童が作成した絵文字を、生徒指導・生活委員会・掲示委員会と連携して、校内に掲示させてもらった。

→これまでよりも、**きまりを守る**ことへの意識が高まり、**嘉芸小学校の一員としての自覚（所属感）**が出てきたように感じる。

中学年：3年

安心

説明



学級力向上アンケート結果レーダーチャートをもとに、よりよい学級について、話し合いをした。互いに尊重し合う項目について課題がみられたため、どうすれば、友達にやさしくお互いを認め合える学級になるのか、一人一人が考え意見交換をしていた。きまりの意義についても考えることができた。

中学年：4年

安心・自立

説明



規範意識の低い学級で、すぐに自分勝手な行動をとり、周囲のことなどおかまいなしである。そこで、毎日ルールについて話し合い、確認し合い、自分達でルールを守り合う、支え合う取り組みを行っていった。

それでも、安心できる学級と言えない集団。そこで、子ども達自身が認めるリーダーを学級委員として役割を与え他の児童と一緒にルールを守っていく取組をさせた。それが、「やらされる」から「自分達でやる」へと変わっていった。

これまで、様々な場面でがまんをしていた子たち（知らんふり・他人事）が「やるべきことはやろう」「まちがいはダメ」と発言できるようになったことで責任感が増し、周囲から認められる場面が増えた。

リーダーを育てることで、少しずつ「自分たちでやらなければいけないんだ」という意識を持つ子が増えてきた。

高学年：5年

承認



説明

○児童の作品を、教室に掲示することで、**一人一人の努力や成長を視覚化する。**

○様々な行事や授業を通して、児童が記入したワークシートには、**担任から赤字で必ずメッセージ（共感・承認）**を送るようにしている。

○児童の日記や、作文を新聞に投稿することで、「書くこと」に対して自信がついてきた。また、それらを掲示することで、**仲間を称賛したり、自分も頑張ってみようという意欲を持つ児童もみられる。**

高学年：5年

所属



説明

●**学級会**を開き、学習発表会に向けて発表する内容をクラス全体で話し合い決定することで、**自治的な活動、主体性、協働性を育むことができた。**

○全体でみせる

・**集団の中で他者と共同してやり遂げる**

○グループでみせる

・**自分ができることを選択・決定することで、自信を持って発表できる**

高学年：6年

承認



説明

○琉球新報学校新聞コンクールにて6年生4人が作成した壁新聞が金賞を受賞。
 全校表彰集会にて、校長先生より、表彰を受ける。
 →表彰を受けた児童の「自己肯定感」の高まりと、新たな自己理解だけでなく、肯定的な他者理解にもつながる。最高学年の活躍は、他者の良さを認識する「モデル」となり、児童相互の良さを認識する発見・伝え合いにつながる。



(4) 特別支援

安心・承認

ふりかえりシート 12月4日

ねん なまえ

チェックごもく		○△×
1	じぶんからあいさつをすることができましたか。	○
2	くつばこにくつをそろえておくことができましたか。	○
3	かかとをふまずにうねばきをほくことができましたか。	○
4	つぎのひとがほきやすいように下イシのスリッパを履かせることができましたか。	○
5	さんをつけてともだちをよぶことができましたか。	×
6	「チャイムもくそう」をすることができましたか。	○
7	しせいをたたくしてじのぎょうをうけることができましたか。	○
8	かっぺをたたくしをせずにじのぎょうをうけることができましたか。	△
9	かっぺにりせきせずにじのぎょうをうけることができましたか。	△
10	しずかにはなしをきくことができましたか。	○

あいさつがじのぎょうにほめてきました。たい!!

ふりかえりシート 12月4日

ねん なまえ

チェックごもく		○△×
1	じぶんからあいさつをすることができましたか。	△
2	くつばこにくつをそろえておくことができましたか。	○
3	かかとをふまずにうねばきをほくことができましたか。	○
4	つぎのひとがほきやすいように下イシのスリッパを履かせることができましたか。	○
5	さんをつけてともだちをよぶことができましたか。	×
6	「チャイムもくそう」をすることができましたか。	○
7	しせいをたたくしてじのぎょうをうけることができましたか。	△
8	かっぺをたたくしをせずにじのぎょうをうけることができましたか。	△
9	かっぺにりせきせずにじのぎょうをうけることができましたか。	△
10	しずかにはなしをきくことができましたか。	○

じのぎょうをうけることができました。

説明

○「心を育てる強化実践事項」の4つを中心に、支援学級全体で頑張っており取り組むこと10項目を掲げた。
 毎週月曜日、支援学級合同の朝の会で、10項目のルール確認をする。
 毎週金曜日、支援学級合同のパワーアップタイムで、ルールが守れたかのふりかえりを記入する。
 (ファイリングし、見返すことができるようにしている)

⇒学校生活を安心して過ごすために規範意識を醸成する。

○改善点
 (知的学級に関しては10項目が多いので、3学期からは学級で特に強化していく項目を2つに絞って取り組んでいく。)

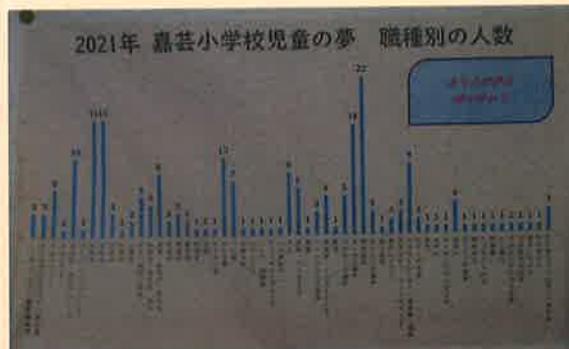
全校体制の取組① キャリア教育

自立（キャリア教育）



説明

○4月、新学年になった児童1人1人に「将来の夢」「学習面・生活面でがんばりたいこと」を記述してもらい、全職員、全児童がいつでもみることができる廊下に年間を通して掲示。
→目標を設定し、自己の**目的意識**を育てていく。



全校体制の取組② 授業改善・新聞投稿

承認



説明

○国語科の授業と関連づけて、高学年を中心に新聞投稿にチャレンジしている。
→「児童の**がんばり**が見える化」する取組を通して、**児童同士が互いの良さや努力を発見し、認め合い、伝え合う**取組が日常化できるようにする。

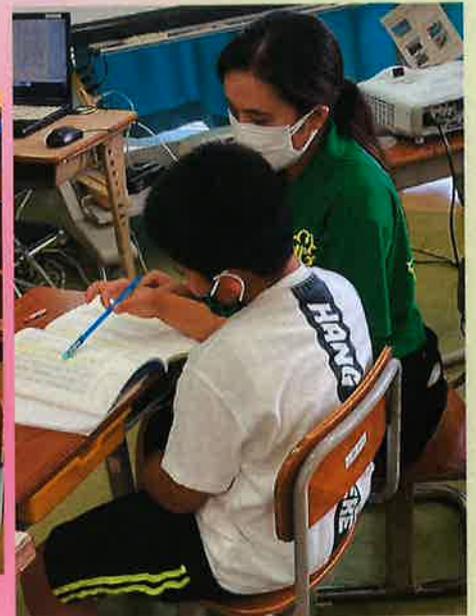


全校体制の取組③ 登校支援（1年生）



毎朝、児童ひとりひとりを児童玄関で丁寧に迎える。教室ではランドセルの片付けや学習用具の準備など細やかな支援を心がける。1年生は、1学期の6月の段階ですが、朝の会には全員が着席し、落ち着いて健康観察ができる状態である。

全校体制の取組③ 学習支援（全学年）



各学年の授業において丁寧な学習支援を実施。
学びへ向かう集団づくり・全職員で児童理解に努める。

研究の成果

～方策1に関連して～

- ▶ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、教材研究の充実が図られた。教材研究及び授業構想においては、学年間で共有化を図ったり、授業改善教師と研究を深めたりすることができた。
- ▶ 児童に身に付けたい力を確実に身に付けることができる授業を目指して、単元進行表を作成したり、授業ノートを作成したりするなど、教師が主体的に授業づくりに励むことができた。

研究の成果

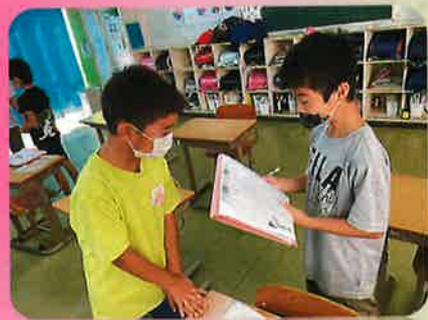
～方策3に関連して～

- ▶ 「確かな児童理解」「支持的風土のある学校・学級経営」の実現に向けて、全職員一丸となって、諸取組を実践することができた。各々の教師の指導が、意図的指導へと変化することで、教師と児童の信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係づくりの充実を図ることができた。
- ▶ 確かな児童理解を目指して、職員間の連携が密になった。それにより全校体制での指導が充実したように感じている。

課題と対応策

- 教師一人一人の授業力向上を目指して、教材研究の充実を図る。具体的には時間の確保及び校内OJTを充実させていく。
- 学力向上の推進と生徒指導とを両輪とした校内体制を構築し、三つの資質・能力をバランスよく育成できるような学習活動の充実を図る。
- 学校・学級経営をさらに充実させるために、共通実践事項を明確化し、全校体制で徹底して取り組んでいく。
- 児童の主体性を高め、学びに向かう集団づくりをさらに進めるため、学級における話し合い活動や児童会活動の充実において継続支援していく。

実践資料



単元プランシート

学校で育てたい資質・能力		
嘉芸小学校第1学年	【単元名】生きものクイズ大会をしよう	(7 時間扱い)

単元目標

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性
①文の中における主語と述語との関係に気付くこと。知識及び技能(1)力	① 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。…C読むこと(1)ア ② 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。…C読むこと(1)ウ	①進んで、動物の本を読み、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、本を選んで読んだり、クイズを出し合ったりしようとしている。

働かせる見方・考え方： 写真と、問いの文と答えの文の対応を読み取る。

単元構想

前単元：「ともだちに どうぶつの ふしぎを しょうかいしよう」(6時間扱い)

段階日付	学習活動(□)と児童生徒の反応(○)	学習を支える教師の働きかけ	評価・他教科
1	いきものクイズをとく □教師が作成したクイズをする。 ○もっとクイズときたい。いきものクイズやりたい。 クイズに必要なものを考える ○クイズって、どうやってつくるの。 □教師が提示したクイズを振り返って、必要な要素を書き出す。	・児童が実際にクイズをとく楽しみを味わえるように、教師が作った生きものに関するクイズ問題を提示し、児童みんなでクイズをとかせる。 ・学習のゴールをモデルとして示す。 ・「質問」「答え」、「写真」が必要な事に気付かせる。 ・学級で話し合い、自分の好きな生きもの。 ・どのようにクイズの材料を集めるか話し合う。 ・図書館や学級文庫の活用を推奨する。	思判表① 知技①
2 3 4	いきものクイズの作り方を読み取る ○どうやって質問を考えたらいいのかな。 □教材文「だれが、たべたのでしょうか」を読んで、問いの文と答えの文の関係を見つける。 □それぞれの写真に関する「問い」「答え」を見つける。	・好きな動物の話題に上げて話し合い、生きものの本に関心を向けさせる。 ・「質問」「答え」の書き方をどのような表現で書かか、考えさせる。 ・「質問」のことを「問いの文」、答えのことを「答えの文」を表すことを伝える。	思判表① 知技①
5	いきもの本を読む ○ライオンにしたい「どのどうぶつにしようかなあ。 □図書室で生きもの本を読み、クイズを作るときに使いたい本を決める。	・多様な生きものを想起できるように動物の話をする。 ・生きもの本を読んで、使いたい写真を選ぶ。	主①
6	クイズの書き方を確認する ○このきりんの本でクイズ作りたいけど、どうやってクイズを書けばいんだろう。 □問いの文・答えの文の書き方を確認して、自分でクイズを書く。	・それぞれの生きもの「問いの文」「答えの文」を比べる。 ・問いの文・答えの文の表現に気付かせる。 ・自分の選んだ動物に合わせて、問いの文・答えの文を書かせる。	思判表②
7	いきものクイズ大会で交流する ○これ難しいはず。みんな、答えわかるかな。 □問いの文をクイズとして出題し合う、答えの文で正解を伝える。	・友達同士でクイズを出し合わせて、問いの文・答えの文が伝わっているか ・	主①

後単元：「オリジナルのりものずかんをつくろう！」(15時間扱い)

単元名:生きものクイズ大会をしよう

(2/7)

授業者: 平野里奈

1 本時のねらい

問いの文と答えの文の意味を知り、教材文の中から問いの文と答えの文をとらえて、読み取ることができる。	(評価場面方法) 場面:2 方法:教科書に赤と青でラインを引かせる。 ノートに問いの文・答えの文を記入する。
---	--

2めあて、まとめ、振り返り

(まとめ) ねずみが、くるみにあなをあけてたべていた。	(めあて) だれが、なにをたべたのかを、よみとろう。
--------------------------------	-------------------------------

⇄ 正対 ⇄

(振り返り)
・問いのぶん、答えの文の意味を理解し

3 本時の展開

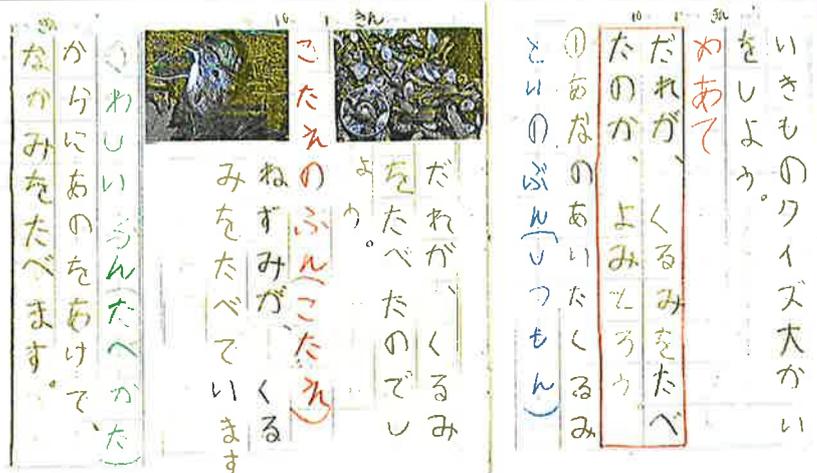
(時間配分)

1. 本時のめあてを確認する。 ・前時といたクイズのことを思いだして、本時のゴールを確認する。 ・動物のことを話し合う。 ・クイズに必要な「質問」を「問いの文」、 「答え」のことを「答えの文」にあたることを伝える。	導入 前時のふりかえり・めあて・・・10分
2. 教材文から「問いの文」「答えの文」を読み取る。 ①教材文を読み、隠れているクイズを見つけさせる。 ②問いの文を見つけて、青いラインを引く。 答えの文に、赤いラインを引く。 ③他の文には、どんなことが書かれているか話し合う。	展開 ①クイズ探し・・・10分 ②問いの文・答えの文の整理・・・15分 ③くわしい文について・・・7分
3. 学習をふりかえる。 ・他の教材文にある生きものについて、 ・今日のわかったこと	終末 次時の見通しと今日のふりかえり・・・3分

4 板書レイアウト等

<p>まとめ ねずみが、くるみにあなをあけてたべていた。</p>		<p>こたえのぶん(こたえ) ねずみが、くるみをたべたのです。 ねずみは、からにあなをあけて、なかみをたべます。</p>		<p>めあて だれが、なにをたべたのかを、よみとろう。</p>	<p>いきものクイズ大会をしよう</p>
--------------------------------------	---	--	--	-------------------------------------	----------------------

5児童生徒のノート ※写真を添付



6授業の振り返り

- ・日常生活にあるクイズや質問、答えというから「問いの文」や「答えの文」といった言葉がかけ離れないように心がけました。「問いの文」「答えの文」をいう言葉を導入してからは、「質問」と「問いの文」、「答え」と「答えの文」をセットにして毎時間説明で使ったり、問いかけたり、掲示したりすると、子どもたちにも定着していました。
- ・クイズを導入時にクイズを取り入れたことで、子どもたちも関心を高めることができた。
- ・動物や生きものとテーマを幅広くとったことで、子ども自身が自分の興味のある動物や生きものの本を積極的に探して読む姿を見ることができた。
- ・写真の多い教材文・教材図書なので、文を読むよりも写真を見て、読んだ気持ちになる児童がいるので、くりかえし「何を食べているの?」「体のどこの部分を使って、食べているの?」「どのようにして食べているのかな。」など、問いかけをくりかすことで地道に読む習慣づけに取り組めました。
- ・寄り添うことと一所懸命読む子どもサポートや支援がなくなると集中が切れて、一人では本を読まなくなってしまうことがあり、友達による読み聞かせも入れて

7これからの授業デザインに向けて

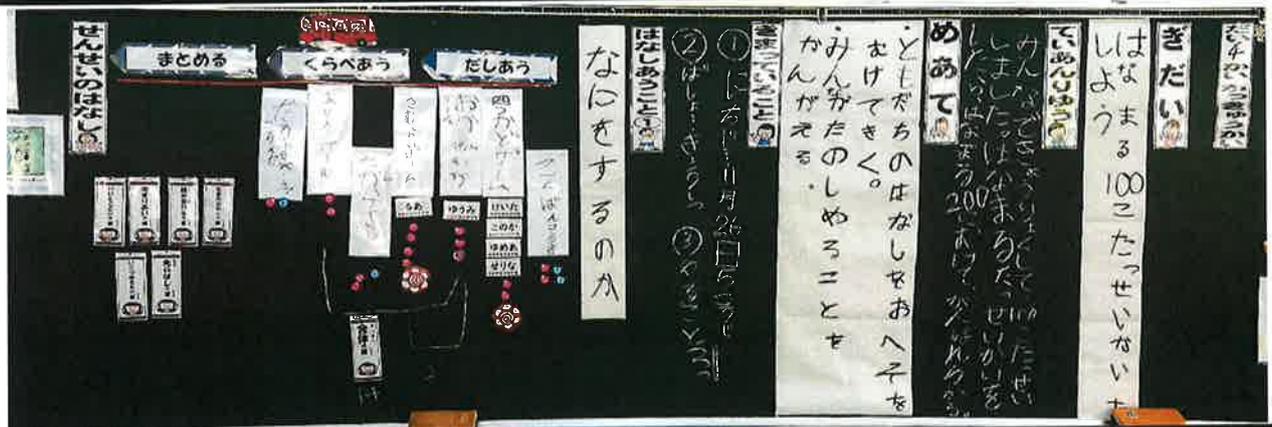
- ・言語活動「いきものクイズ大会」を設定すると子どもたちが意欲的に楽しく、ただし、活動の中で「こんなことができるようになるう!」という目標を子どもと共有して、身に付けたい力からそれていかないように教師自身が留意する必要があると感じました。
- ・読む力をつけるためには、土台となるひらがな五十音・濁音・半濁音に加えて拗音など、基礎的な読みと書きの定着が必須です。読むのが楽しいと思えるような平仮名学習や音読学習が重要だと思いました。
- ・分散登校や休校による家庭での学習が大きな差になっていましたが、「これ読んでほしい」「読むから聞いてほしい」という子どもの願いに沿いながら、一人ひとりのペースで粘り強く関わることでどんどん力を伸ばすことができることを感じ、改めて音読の重要性や日頃から読書や音読に親しむために、読み聞かせや読書の時間を確保したいと思いました。

議題 はなまる達成会をしよう

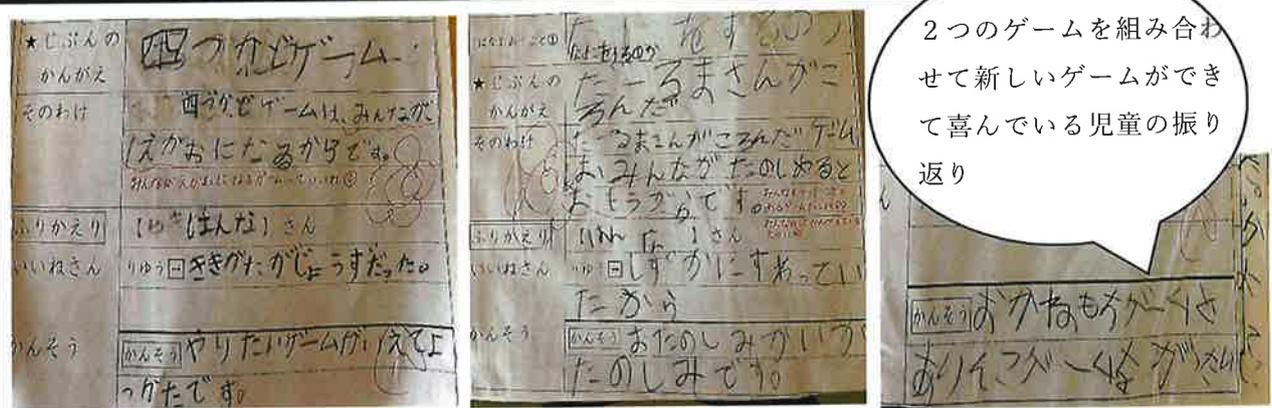
授業者:玉寄 なみき

1 本時のねらい	
みんなで楽しめるはなまる達成会の内容を出し合うことができようにする。	(評価場面方法) 発言・観察 自分の考えを進んで発表したり, 友達の考えを聞くことができた。
2めあて、まとめ、振り返り	
(めあて) ①友だちの発表を, さいごまできこう。 ②みんなが, 楽しめることを考えよう。	
3 本時の展開	
1. 話し合いの確認 ○議題の確認 「はなまる達成会をしよう」 ○提案理由の確認 ・4月から取り組んできたはなまるが100こ達成した。みんなで力をあわせてがんばったのはなまる達成会をして, 次ははなまる200こめざしたい。 ○話し合いのめあての確認 ①友だちの発表を, さいごまできこう。 ②みんなが, 楽しめることを考えよう。 ○決まっていることの確認 ①日時…11月26日 5時間 ②場所…教室 ③やる事…3つ 2. 話し合い 話し合うこと① 「はなまる達成会で何をするか」 ①出し合う ・事前にワークシートに自分の意見を書かせて, たくさんの意見を出し合うことができるようにする。 ・みんなで楽しめる内容になっているか考える。 ②比べ合う ・反対や賛成の理由も考える。 ③まとめる ・合意形成のヒントになるカードを提示する。 3. 学習を振り返る。 ・友達の発表のいいところや今日の話し合いの感想を書く。	(時間配分) 導入 話し合いの確認 5分 展開 だしあう: 12分 くらべあう: 12分 まとめる: 6分 終末 振り返り: 10分
4 板書レイアウト等	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>①にちじ: 月 日 5こうじ</p> <p>②ばしよ: きょうしつ ③やること: 3つ</p> <p>はなしあうこと①</p> <p>なにををするか。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>だいい四かいがつきゅうかい</p> <p>ぎだい</p> <p>はなまるたっせいかいをしよう</p> <p>ていあんりゅう</p> <p>はなまるをして, 次の200回にむけて</p> <p>みんなががんばりたいからです。</p> <p>はなしあいのめあて</p> <p>①友だちの発表を, さいごまできこう。</p> <p>②みんなが, 楽しめることを考えよう。</p> <p>きまつていること</p> <p>①にちじ: 月 日 5こうじ</p> <p>②ばしよ: きょうしつ ③やること: 3つ</p> <p>まとめる←くらべあう←だしあう</p> <p>せんせいのはなし</p> </div> </div>	

5 授業の実際(板書) ※写真を添付



6 児童生徒のノート ※写真を添付



7 授業の振り返り

- ・学級活動についてのアンケートを実施したところ「話し合い活動がすきですか。」という質問に対して、100%の児童が「はい」と回答しており、話し合い活動に意欲的なことがわかった。しかし、「自分の意見をみんなの前で発表できますか。」という質問に対して「はい」と回答した児童は、81%と少し低い結果だった。このことから、話し合いで自分の意見を発表したくても発表の仕方が分からないで困っている児童もいるのではないかと考え、事前に学級会ノートを記入し、発表の練習を行うよう支援した。すると、普段自分で発表しない児童が、たくさん発表することができていた。友達の発表もしっかり聞き、発表するときには「〇〇さんと同じで～です。」と発表したり、くらべるの場面では、賛成・反対の理由を添えて発表したりすることができていた。
- ・発表できなかった児童も合意形成の時間に隣の人との話し合いでは、話し合うことができていた。
- ・今回の話し合いで、きめる事は3つあったが、2つを多数決で決め、1つは合意形成で決めようと思ったら、話し合いが延びてしまい振り返りの時間までいけなかったので、タイムマネジメントの工夫が必要だと感じた。

8 これからの授業デザインに向けて

- ・タイマーの押し忘れがあったり、時間を過ぎても話し合いをそのまま行っていたりしたので、事前に時計の掲示物を用意して、話し合いの時間にメリハリをつけて話し合わせる。
- ・合意形成の仕方がまだ定着していないので、話し合い活動の時だけに、合意形成のカードを提示するのではなく、常に見えるところに、掲示しておくとし話し合い活動でも児童たちから進んで合意形成を図ろうと思う。
- ・意見を発表できない児童も参加できるように、ペアで意見を見合う時間やグループで考える時間など設ける。すると、周りに認められた、みんなで一緒に考えたという安心感も芽生え、話し合いに参加できると思う。他者との交流の場を積極的に設けることで共感的な人間関係を育成し、他教科でも互いに学び合いながら学習できるように話し合いの仕方を考える。

単元プランシート

学校で育てたい資質・能力

小学校第2学年 【単元名】くりかえしのあるお話を読んで、おもしろさをつたえよう(14時間扱い)

単元目標

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性
①語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読すること。〔知識及び技能〕(1)ク)	①場面の様子に着目して, 登場人物の行動を具体的に想像すること。…C(1)エ ②文章の内容と自分の体験と結び付けて感想を持つこと。…C(1)オ	①進んで, 場面の様子に着目して, 登場人物の行動を具体的に想像し, 学習課題にそって読んだ本のおもしろいところを發表しようとしている。

働かせたい見方・考え方
お話のくりかえしている部分・変化している部分に着目し, 登場人物の行動を読み取る。

単元構想

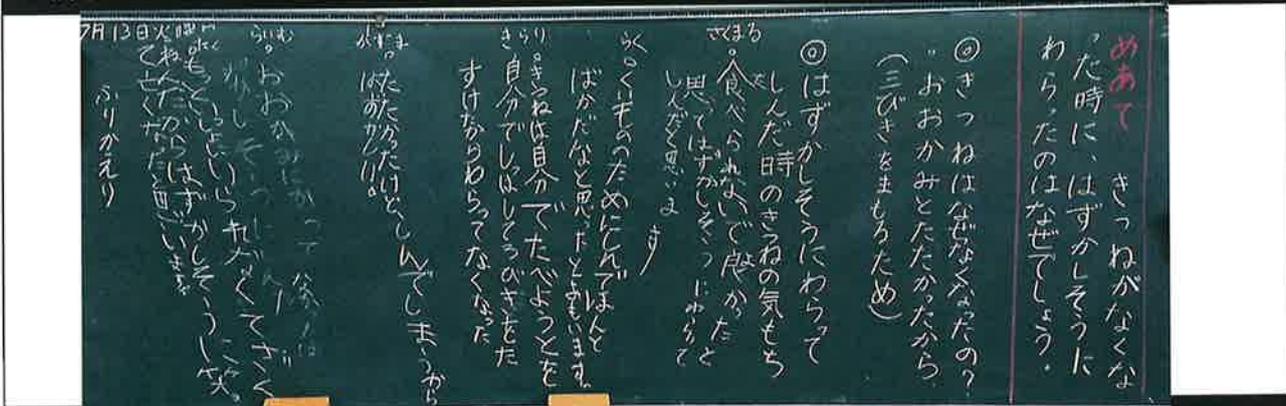
前単元:登場人物のしたことに気をつけて読もう
『えいっ』のおもしろかったところとそのわけを書き, 紹介し合う。

段階 日付	学習活動(□)と児童生徒の反応(○)	学習を支える教師の働きかけ	評価・他教科
1	これからの学習の流れをつかむ ○くりかえしのあるお話を読んでみたい。スライドを作って発表してみたい。 □担任のモデルを見て, 気づいたことを発表する。	・教師作成のモデルを提示し, ゴールの姿を具体的にイメージさせる。	主①
2	登場人物の言ったこと, したことをおさえる	・全文シートを使うことで, 文章の構成や, くりかえしに気づきやすくさせる。	思判表①
3	○言ったこととしたことに線を引くと, どんなお話なのかよく分かる。	・ワークシートはイラストと吹き出しを使い, 取り組みやすくする。	知技①
4	□言ったこと, したことに蛍光ペンで印をつける		
5	□ワークシートに言ったこととしたことを書き込んでいく。		
6	きつねの気持ちを想像する	・登場人物が言ったことやしたことを想起させてから取り組む	思判表②
7	○きつねは3匹の事が大好きになっているんだね。 □3匹に「○○お兄ちゃん」と言われた時の気持ちを想像する。	・ただ想像するだけにならないよう, 「文章のどこからそう思ったの?」と声掛けをする。	思判表②
8	□きつねはなぜオオカミと戦ったのか想像する。 □きつねが恥ずかしそうに笑って死んだときの気持ちを想像する。		
9	きつねがどんな性格なのか考える ○きつねは色んな性格を持っているね。 □きつねが言ったことやしたことを基に, きつねの性格を想像する。	・性格を表す言葉を前に提示することで, 幅広い意見を出しやすくする。 ・文章のどこでそう思ったのか線を引かせる。	思判表②
10	絵本を読み, くりかえしや面白かったところを見つける	・グループ用のワークシートと個人用のワークシートを準備し, 自分の意見を書く機会を作る	主①
11	○繰り返しているところと, 少しずつ変化しているところがある	・本の読み方も1ページごとに読む人を回すように声掛けし, 学習がスムーズに進むようにする。	
12	□くりかえしのあるお話をグループで読む。 □くりかえしとおもしろかったところをそれぞれで書く。 □グループで意見をまとめてスライドを作る。	・クロムブックを使用し, スライドを作ることができるよう, 学活の時間を使って, スライドの作り方の説明をする。 ・発表の練習を行う際, 客観的な視点が持てるよう, クロムブックで撮影し, 自分たちで振り返らせる。	
13	クラスで発表会を行う ○発表を聞いて, 他のグループの選んだ作品も読みたくなった。 □スライドを使い, グループごとに発表する □ほかのグループの良かったところや発表を聞いた感想を振り返りに書く	・発表の前に, 聞かときの視点を持たせる。 ・発表の良かったところをすぐに何名かに言ってもらい, 発表した児童の自信を持たせることや振り返りを書くときのヒントにする。	主①

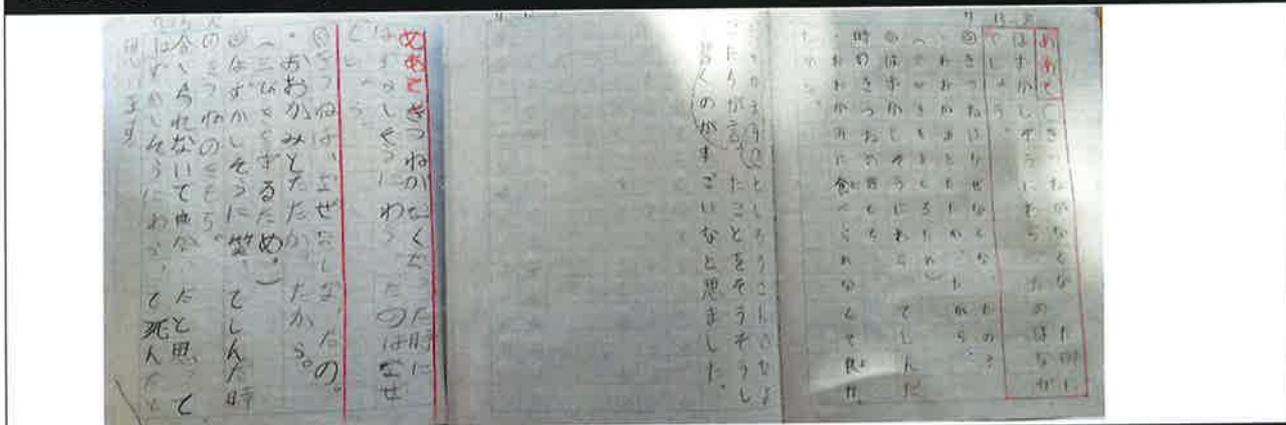
後単元:だれが, どのようにかわったかを考えて読もう(教材名『ないた赤おに』)

1 本時のねらい	
根拠になる表現をもとに、きつねの気持ちを想像する。	(評価場面方法) 場面:3. 学習を振り返る 方法:学習のゴールにたどり着けたか、自己評価を記入させる。
2めあて、まとめ、振り返り	
(まとめ) きつねがなぜ恥ずかしそうに笑って死んだのかを文章をもとにして考えることができた。	(めあて) どうしてきつねは、はずかしそうにわらってしんだのか考えよう。
(振り返り) ・最初はきつねは自分が食料のために死んだのが恥ずかしいと思っていたけど、友達の意見を聞いて、もっと3匹と一緒にいたかったのかなと思った。など	
3 本時の展開	
1. 前時までの学習を想起し、本時の学習のめあてを確認する。 めあて:きつねがしぬときに、はずかしそうにわらったのはなぜだろう。	(時間配分) 導入
2. 狐の気持ちを想像する ホップ 『きつねのおきやくさま』の内容を思い出す。 ①音読 ②なぜ死んでしまったのかを確認する。(3匹を守るために、オオカミと戦ったから) ステップ きつねの気持ちを想像し、文章にまとめる。 ジャンプ 自分が想像したきつねの気持ちを伝え合う。	前時の振り返り: 2分 めあて: 2分 展開 ホップ: 15分 ステップ: 10分 ジャンプ: 10分
3. 学習を振り返る。 ・友達の意見を聞いて思ったことや考えたことを記入する。	終末 振り返り: 6分
方策1との関わり 互いの良さを学び合える授業を展開し、共感的人間関係の育成を図る。	
4 板書レイアウト等	
ふりかえり 友だちのはつびよりの良かったところや思ったこと。	※子どもの考え ◎はずかしそうにわらってしんだときのきつねの気持ち。 ◎きつねは、なぜしんでしまったのだろう。 三びきを守るために、オオカミとたたかったから。
めあて どうしてきつねは、はずかしそうにわらってしんだのか考えよう。	

5 授業の実際(板書) ※写真を添付



6 児童生徒のノート ※写真を添付



7 授業の振り返り

- ・授業を進める時に、考える時間を多く取ることで、できるだけ子どもの声を活かした授業にすることを大切にしている。本時も子どもからめあてを引き出すことができた。しかし、めあての文が「なぜでしょう」になっていたため、答えが一つだけではない今回の場合は、「なぜか考えよう」の形にするべきであった。子どもの言葉をそのまま使うのではなく、その場に合う形に訂正することは怠ってはいけなさと改めて思った。
- ・空想で終わることがないように、本文をもとに考えることを大切にしている。本時は、本文に書いてあったことを思い出すためにも、きつねの気持ちを考える前に本文の内容を思い出すための活動を設けた。しかし、それでもまだ自分の中で勝手にセリフやお話を作ってしまった児童もいたため、より丁寧な指示が必要だった。
- ・本時では、未だにうさぎたちの事を食料だと考えている児童もいたため、子どもの意見を発表させた後、これまでの学習で、きつねは3匹のことを思う気持ちに変化していたことに気づかせて、誰の意見がきつねの気持ちに近いのか問い返しを行ったことで、少し授業が深まったように思う。しかし、振り返りの時間が短くなり、「○○さんの考えがおもしろかった。」等、抽象的な振り返りしかかけていなかった児童が多かった。

8 これからの授業デザインに向けて

- ・これまで、板書をあまり重要視していなかったが、授業の中で、必要な視点や、条件などは、最初に全体で確認し、板書に分かりやすく記す事が必要であると実感した。
- ・子どもたちに振り返りを書かせるときに、時間がないとつい書いていけば丸をつけてしまうが、どうしてその人の意見がいいと思ったのか等、具体的に書かせなければ意味がないので、振り返りの時間を十分に確保できるようなタイムマネジメントが必要であると改めて感じた。
- ・授業の中で、本時の課題がつかめておらず、書き始められない児童がいた。指示の出し方の工夫や個別の声かけなどが必要であると思ったが、本当は、授業をもっと魅力的なものにし、話を聞きたいと思わせられるようになることが、最も重要だと感じている。そうした授業を目指していきたい。

単元プランシート

学校で育てたい資質・能力

小学校 2 学年 【単元名】「クラスお楽しみ会」をひらこう (8 時間扱い)

単元目標

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性
共通, 相違, 事柄の順序など情報との関係について理解している。〔知識及び技能〕(2)ア)	「話すこと・聞くこと」において, 互いの話に関心を持ち, 相手の発言を受けて話をつないでいる。〔思考力, 判断力, 表現力等〕Aオ)	積極的に互いの話に関心を持ち, 今までの学習を活かして少人数で話し合おうとしている。

働かせる見方・考え方: 話し合いの目的を理解し, 互いの話に関心をもつこと。

単元構想

前単元: 話したいな, 聞きたいな, 夏休みのこと

段階日付	学習活動(□)と児童生徒の反応(○)	学習を支える教師の働きかけ	評価・他教科
1	単元名や教材名を読み, 話し合いの流れや学習の見通しをもつ。 1. やりたい遊びを個人で考える。	教科書を読み, 「クラスお楽しみ会」や話し合いのイメージをもたせ, 今後の流れを確認させる。	知識・技能
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 方策1 とのかかわり 自己決定の場をつくる </div>			知識・技能
2 ~ 5	2. やりたい遊びとその理由をカードに書く。 3. やりたい遊びについてグループで話し合い, 互いに質問したり答えたりする。	ワークシートを配り, 自分がやりたい遊びとなぜやりたいのかの理由を記入させる。教科書に例があるので, 教科書を開かせる。	思・判・力
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 方策3 とのかかわり 支持的風土のある学級を目指す </div>			
6 ・ 7	4. グループで話し合っまとめたことを, クラスに伝えて, 遊びを決める。 (1) やりたい遊びについて, 互いに質問したり, 答えたりする。 (2) クラスでやりたい遊びを決める。	教科書を読みながら, 話す時に気をつけること, 聞く時に気をつけることを確認してから話し合いをさせる。発表する時に, うまく話せない子などには, グループの同士で協力してするよう机間指導しながら声かけを行った。	学びに向かう力, 人間性
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 方策3 とのかかわり 学級活動の充実を目指す </div>			
8	5. 話し合いを行った感想を伝えあう。 6. 話し合いの進め方や, 分かりやすく理由を話したり, 疑問に思ったことは質問したりできたか等を振り返る。	話し合いの時に分かりやすく理由を言うことができていたか, また, 話を聞いて質問ができていたか等を確認する。	

後単元: むかしのあそびをせつめいしよう

単元名

(1/8)

授業者: 池原 はなこ

1 本時のねらい

単元名や教材名を読んで、「クラスお楽しみ会」を開くことを知り、クラス遊びを決めるまでの流れを捉える。

(評価場面方法)

場面:5 学習を振り返る。

方法:学習で分かったことをノートに記入させる。

2めあて、まとめ、振り返り

(まとめ)

これから、やりたい遊びやその理由を考えたり、グループやクラスで話し合いをして、お楽しみ会の準備をしよう。

(めあて)

これから、どのような学習をするのだろう。



(振り返り)

話し合いの目的がわかり学習の流れを理解しているかを振り返る。

3 本時の展開

1 新しい単元に入ることを伝える。

めあて:これから、どのような学しゅうをするのだろう。

2 お楽しみ会の日時を伝える。

3 お楽しみ会までの流れを全体で確認する。

①やりたい遊びを考える。

②考えた遊びと、その理由を考える。

③話し合いを行い、クラスに伝える。

(1)カードを使う

(2)グループの話し合いをクラスに伝える。

④感想を伝え合う。

4 自分がやりたい遊びを考える。

5 学習を振り返る。

本時の学習を見直し、話し合いの目的がわかり学習の流れを理解しているかを振り返る。

(時間配分)

導入

1 単元の説明・めあて 10分

展開

2~4 単元の流れの確認 25分

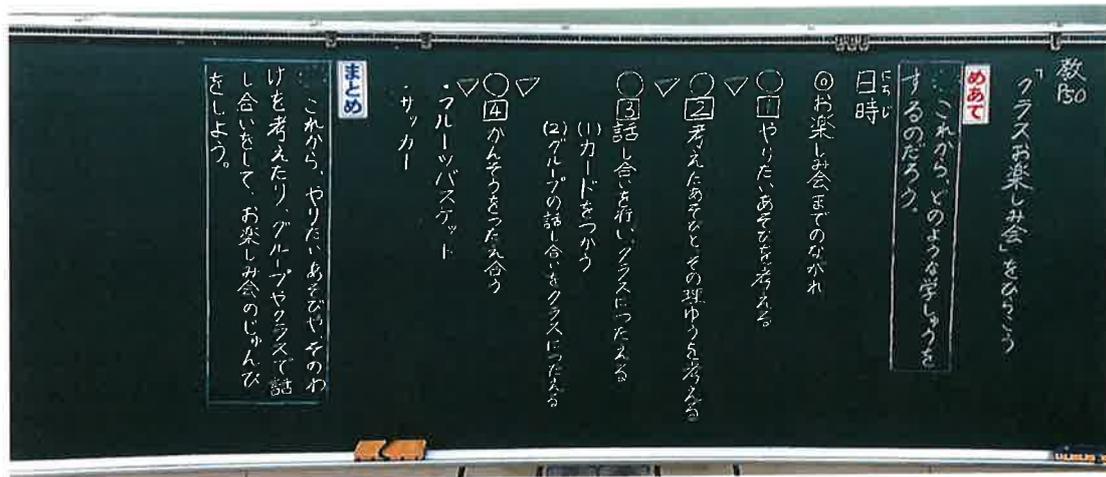
終末

5 まとめ・振り返り 10分

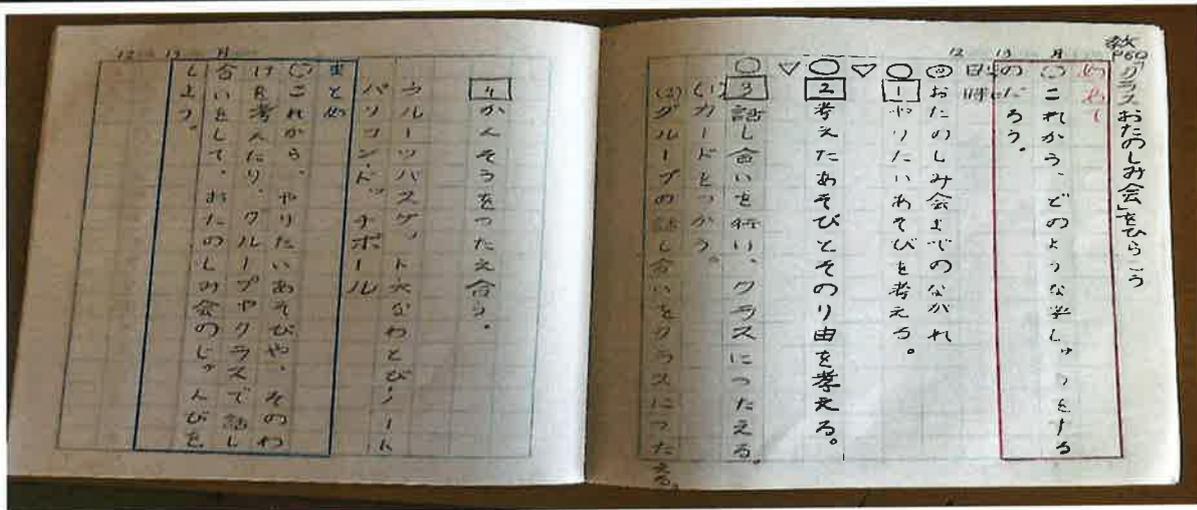
4 板書レイアウト等

<p>まとめ</p> <p>これから、やりたい遊びやその理由を考えたり、グループやクラスで話し合いをして、お楽しみ会の準備をしよう</p>	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フルーツバスケット ・サッカー ・ドッチボール 	<p>◎お楽しみ会までの流れ</p> <p>①やりたい遊びを考える</p> <p>②考えた遊びと、その理由を考える</p> <p>③話し合いを行い、クラスに伝える</p> <p>(1)カードをつかう</p> <p>(2)グループの話し合いをクラスに伝える</p> <p>④感想を伝え合う</p>	<p>日時 ○月○日()</p> <p>めあて</p> <p>これから、どのような学習をするのだろう。</p>	<p>12月13日 月曜日</p> <p>教 P50</p> <p>「クラスお楽しみ会」をひらこう</p>
---	---	---	--	---

5 授業の実際(板書) ※写真を添付



6 児童生徒のノート ※写真を添付



7 授業の振り返り

- ・学級内には、ノートを書かない子や話を聞いていない子達が、活動が始まると「何を、どうしたらいいのかわからない」という時がある。このように一部の児童がおいていかれないように、板書もゆっくりした。また、めあてを書き終えた後は「鉛筆を置きましょう」と声かけをしているので、一目で誰が遅れているのかが分かるので、その子に合った支援がすぐにやりやすい。遅れている児童には、声かけのみの子もいれば、私が赤ペンで書いた字をなぞらせるといった個々に応じた支援を行った。
- ・最後の活動で、自分がやりたい遊びを考えさせたが、中には時間内に遊びを書くことができない児童もいた。そういった児童の為に例を挙げていたが、それでも書けない児童もいたので、休み時間にゆっくり話しながら好きな遊び・やりたい遊びを考えさせた。そうすることで、次時にはまたみんなと同じスタートラインに着くことができるように心がけた。

8 これからの授業デザインに向けて

- ・板書の見やすさと、字の統一感を意識していきたい。また、ペースがゆっくりな児童への支援についても、前もって伝える等の工夫をしていきたい。
- ・今回、教師が主になっているところが多かった。子ども達が主体的にペア、グループ活動ができるような声かけと教材研究を心がけていきたい。

学校で育てたい資質・能力 自力で読み取る力 読みを深める

小学校第3学年

【単元名】わすれられないおくりもの(9時間扱い)

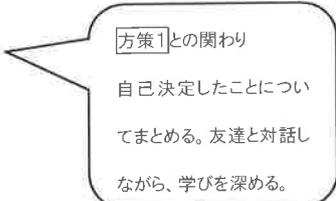
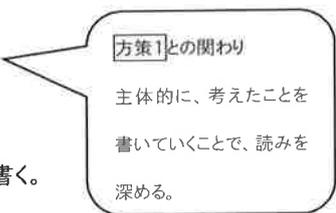
単元目標

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性
① 主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる…(1)力	① 読むことにおいて、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わりとは結び付けて具体的に想像することができる…C(1)エ ② 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝えあったりすることができる…C	① 進んで登場人物の気持ちの変化について場面の移り変わりとは結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって感想を文章にまとめようとしている。

働かせたい見方・考え方 叙述をもとに、場面の移り変わりと登場人物の行動、気持ちの変化をとらえる。

単元構想

前単元 のらねこ ○登場人物の行動や気持ちについて叙述をもとにとらえることができる。

段階日付	学習活動(□)と児童生徒の反応(○)	学習を支える教師の働きかけ	評価・他教科
1	題名の「わすれられないおくりもの」とはどのようなものかを考える。教師の範読を聞く。 ○「おくりもの」ってなんだろう。もらったことがある。 □教師の範読を聞き、初発の感想を書く。	・単元のとびらを読んで学習の見通しをもつ。 ・題名からどのようなことを考えたか、自由に想像し、初発の感想を書く。 ・範読を聞きながら、場面番号を入れさせる。	知技①
2	森の動物たちの、あなぐまの思い出を表に整理して発表する。 ○自分が好きな森の動物とあなぐまの思い出をまとめたい。 □物語を読んで、選んだ動物について思い出をまとめる。 	・好きな動物を選択させ、同じ動物を選択した者同士でグループをつくり、思い出をまとめる。 ・グループ活動では、まず自分のノートに書いたことを伝え、ホワイトボードにまとめていく。→発表	主①
3	学習の【めあて】と【ゴール】を確認する。 ○どうやって、登場人物の気持ちを読み取ることができるか知りたい。 □提示された言語活動のモデルを見る。(叙述をもとに読み取った感想が書かれている文)	・全文シートを活用して、登場人物の気持ちが表れているところに、線を引かせる。 ・登場人物の気持ちの変化について気づきがあれば、付箋紙に記入して、全文シートにはらせる。 ・友達の付箋記入もみながら、感想を共有させる。	思判表① 主①
4	叙述をもとに、もぐらの気持ちの変化を読み取ろう。 ○教科書の中からもぐらの気持ちが書かれた文章をさがそう。 ○もぐらの気持ちが変わっているところはどこか知りたい。 □登場人物の気持ちや性格、行動が書かれた文をさがし、その変化について、感じたことをノートにまとめる。	・登場人物の気持ちが季節の変化を合わせて描写されていることに気づかせる。 ・登場人物の気持ちが変わった部分は、どの文章を読めばわかるのか問いかける。	思判表① 主①
5	森の動物たちにとってわすれられないおくりものとはどのようなものかを話し合い、あなぐまへ伝えたいお礼の言葉を想像して書こう。 ○ずっと動物たちの中に残っている思い出がおくりものなのではないか。 ○お礼の言葉を書きたい。	・自分が書きたい動物を選択させて、お礼の言葉を書かせる。 ・友達が書いた「お礼のことば」を聞いて、考えを深めさせる。	思判表① 主①
6 本時	「わすれられないおくりもの」を読んで感じたことを文章にまとめる。 ○私は、あなぐまさんに～を教えてほしいな。 □感じたことを文章に書く。 	・「自分」を主語として、感想を書かせる。 ・書いた文を友達と交流させ、自分が考えたことを伝えられるようにする。	
7	前時と同様		
8	他の物語を読んで感想文を書く。		
9	前時と同様		

単元名 わすれられないおくりもの

(6/9)

授業者:石川 優奈

1 本時のねらい

わすれられないおくりものを読んでおもったことや感じたことを文章にまとめる。	(評価場面方法) 場面:3. 学習を振り返る 方法:ノート
---------------------------------------	-------------------------------------

2めあて、まとめ、振り返り

(まとめ) 登場人物の行動や気持ちを本文からさがしだすことで、感想をまとめることができる。	 正対	(めあて) 登場人物の行動や気持ちを場面のうつりかわりに気をつけながら感想をまとめよう。
--	--	---

(振り返り)

- ・登場人物の気持ちを考えながら、感想をまとめることができた。
- ・登場人物の気持ちを教科書の文から読み取って線を引き、感想にまとめることができた。

3 本時の展開

1. 本時の学習のめあてを確認する。 (時間配分)

めあて:登場人物の行動や気持ちを場面のうつりかわりに気をつけながら感想をまとめよう 導入

2. 登場人物の行動や気持ちが読み取れるのは、どの部分か。

ホップ 前時の学習を想起させる。 展開

森の動物たちの気持ちの変化が読み取れた場所を確認(叙述)⇒一人読み全文シートを活用して、全員で登場人物の気持ちの変化と叙述部分を確認。

ステップ 感想をまとめる。 方策1との関わり

ジャンプ 学習のゴールにたどりつけたか、自己評価する。 「私は～思いました」自己決定の場

3. 学習を振り返る。 終末

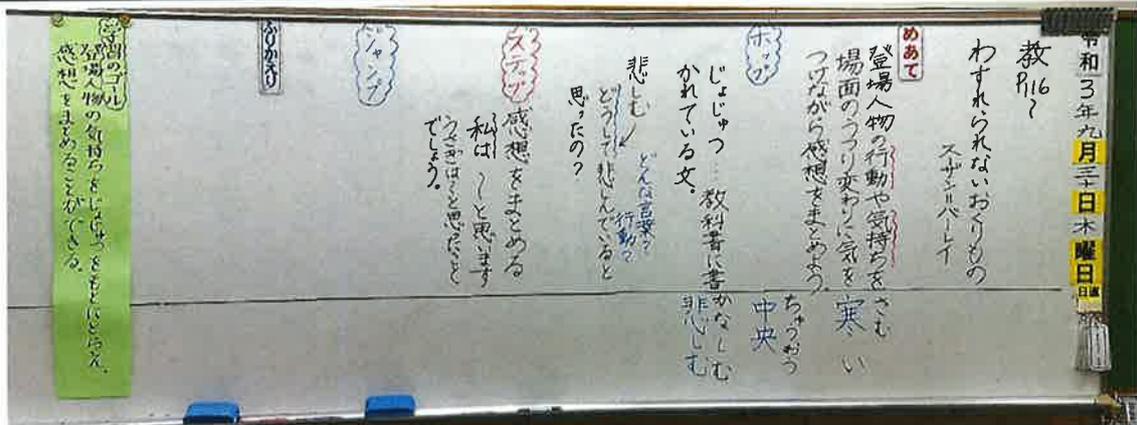
- ・【学習のゴール】を確認し、ゴールにたどりつけたかどうか自己評価する。
- ・今回の学習で身に着けた力を今後どのように生かしていくか考える。

めあて : 3分
展開 : 7分
ステップ : 25分
ジャンプ : 5分
振り返り : 5分

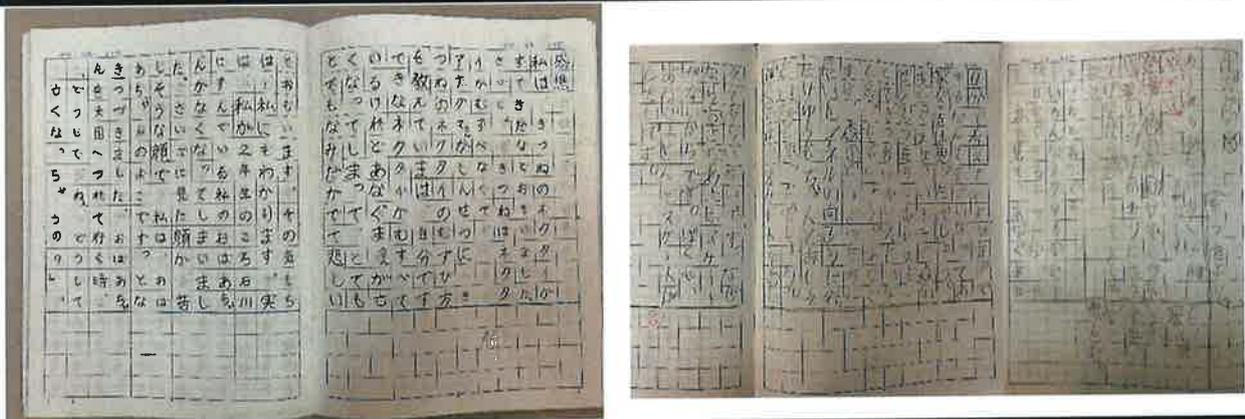
4 板書レイアウト等

ふりかえり	ジャンプ 「うさぎは、くと思ったことでしょう。」	ステップ 感想をまとめる 「私は、くと思います」	ホップ 叙述・・・教科書に順を追って書かれていること。 悲しむ・・・どうして悲しんでいると感じたか。登場人物の行動を中心に説明。	めあて 登場人物の行動や気持ちを場面のおくりものうつりかわりに気をつけながら、感想をまとめよう。	九月三十日(木) 教 P16 わすれられないおくりもの スーザンIIバーレイ
			悲しむ	中央	寒い

5 授業の実際(板書) ※写真を添付



6 児童生徒のノート ※写真を添付



7 授業の振り返り

・感想をまとめるところで、主体的に作業をすすめる児童と作業がストップしてしまう児童にわかれた。「叙述をもとにした読み」を教師と対話しながら1人1人進めていかなければならないため、時間がかかった。本時に入るまでに、全文シートを活用し、叙述をもとに、それぞれの登場人物の気持ちの変化に気づいたところに付箋紙を貼ったり、登場人物の気持ちになって、あなぐまにお礼の手紙を書かせたりしていた。しかし、児童の「叙述」に対する捉えが、いまいち弱かったように感じる。登場人物の気持ちを想像するときに、「なんとなくそう思った」という発言をのがさず、「なぜ、思ったのか?」「教科書のどのあたりを読んで、そう感じたのか」という問い返しの必要性を感じた。ファシリテーターとしての役割を果たしていきたい。根拠となる叙述を明確にしなが、想像を広げて読むことができるように全文シートを活用した指導・授業を重ねる必要がある。また、登場人物の気持ちの変化を具体的に想像していくためにも、教科書を活用した音読をくりかえし行わせることも必要だと改めて感じた。

8 これからの授業デザインに向けて

- ・感想をまとめるためには、しっかりと「読む力」を身につけることが大切である。教材の読み方について、教材研究を深めていきたい。
- ・感じたこと、考えたことをまとめることは、普段から「書く」事になれていなければならない。
- ・同じ作者の本を読み広げるなど、視点を与えた読書活動を行っていきたい。

◆自力で読み取る子の育成 「基本的な言語の習得」「学び合い」を通して

◆小学校 第4学年：【単元名】 大事な言葉や文に気をつけて要約しよう
【教材名】 ウミガメの命をつなぐ（9時間扱い）

● 単元目標

知識および技能	思考力・判断力・表現力 B	思考力・判断力・表現力 C
①主語と述語との関係、修飾語と被修飾語の関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。→(1)カ ②考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。→(2)ア	①書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。→(1)イ ②自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。→(1)ウ ③書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけること。→(1)オ	①段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。→(1)ア ②目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。→(1)ウ ③文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつこと。→(1)オ ④文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくこと。→(1)カ
学びに向かう力・人間性【態度】		
①積極的に、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約し、学習の見通しをもって、本教材の紹介文を書こうとしている。		

働かせたい見方・考え方

ウミガメの産卵や成長を研究する名古屋港水族館の取組を時系列にそって読み、興味をもった点から整理して文章を要約する。

● 単元構想

前単元:結果と結論のつながりを読み、伝わりやすい組み立てを考えて書く

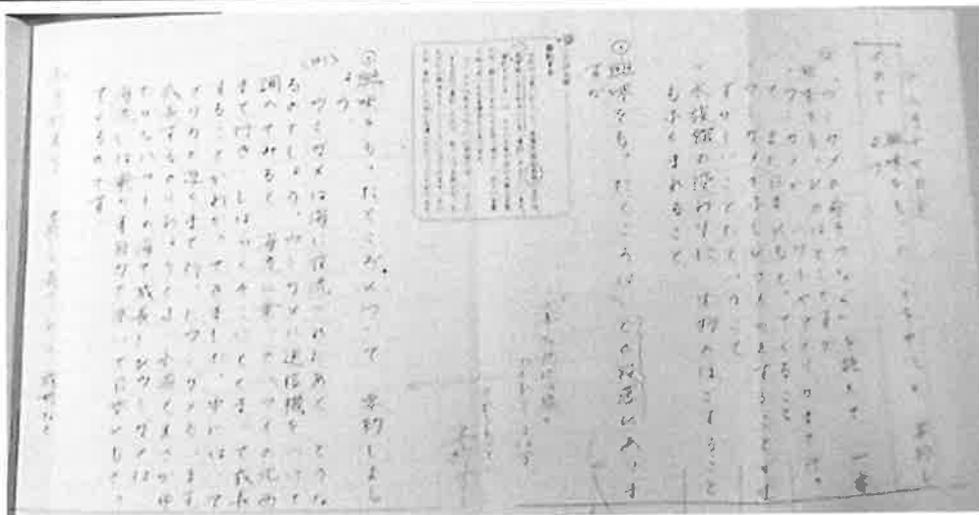
- 1.様々な研究方法や成果、課題を整理する。
- 2.自分がどのようなことに興味をもったか気づき、相手に伝わるように要約する。

段階	学習活動	学習を支える教師の働きかけ	評価
1 ～5	■単元名や二枚の写真を手がかりに学習の見通しをもつ。 <u>確かめよう</u> 名古屋港水族館が取り組んだ二つの研究の経過を読み、時系列に沿って整理する。 *どんな研究をしたか。 *いつ、どんなことがあったか。 *明らかになったことや残った問題は何か。	①形式段落をうたせて、どのような内容になっているか考える。 ②名古屋港水族館の二つの取組について考えさせ、次時からの読み取る柱をしっかりと確認させる。 ③ウミガメの産卵について「どんな方法」「結果」を考えさせる。	知技(2)ア 知技(2)イ
6・7	<u>考えよう</u> 興味をもったことを明確にする。	④⑤⑥ウミガメの放流について「わかったこと」(タグをつけての放流研究)(送信機をつけての放流研究)とその結果を考えさせる。	思判表B イ 思判表C ウ 思判表C オ
8 本時	<u>深めよう</u> 書きだした大事な言葉や文をもとに、興味をもったことを中心に要約する。	⑦二つの研究から水族館の役割を考えさせる。	態度
9	<u>広げよう</u> それぞれがどんなことに興味をもったかに気をつけながら、要約文を発表し合う。	⑧興味をもったことを中心に要約させる。 ⑨要約文を読み合い感想を交流する。 ●学習を振り返る。	

方策1との関わり
自己決定の場を与える。

方策1との関わり
互いのよさを学び合う

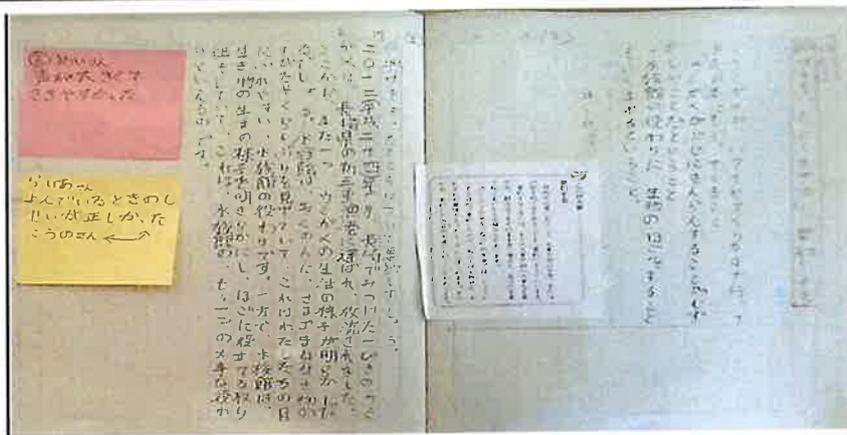
1 本時のねらい	
前時までの学習内容で興味がある部分を しぼり、要約させる力を身につけさせる。	(評価場面方法) 場面:いくつかの段落にわたって書かれている 内容を短くまとめられているか? 方法:次時の発表につなげて自己評価させる。
2 めあて、まとめ、振り返り	
(まとめ) 要約することは、文章や話しの全体の一部を 短くまとめることである。	(めあて) 興味をもったことを中心に、要約しよう。
(振り返り) ・「ウミガメの命をつなぐ」の興味をもったことを、要約してみて気づいたことや感想を書こう。	
3 本時の展開	
1.範読し前時までの学習内容を確認する。 めあて:線を引いた部分を確認し、興味を もったことを要約する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 方策1との関わり 自己決定の場を与える。 </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">(時間配分)</div> <div style="margin-top: 10px;"> 導入 範読 4分 めあて 2分 </div> <div style="margin-top: 10px;"> 展開 ホップ 8分 ステップ 8分 ジャンプ 20分 </div> <div style="margin-top: 10px;"> 終末 ふりかえり 3分 </div>
2.興味をもった部分について、たとえで確認してみる。 ホップ〔例〕形式段落⑦～⑨… ⑫～⑬… ⑯～⑲…	
3.児童一人一人の興味をもった段落を考えさせる。	
ステップ 4.要約とはどういうことか解説する。	
ジャンプ 5.要約文を書かせる 6.要約した文を再確認する(教師のモデルを読み聞かせる) 7.ふりかえり (要約してみて気づいたことや感想)	
4 板書レイアウト (ノート)	



5 授業の実際（板書）



6 児童生徒のノート



7 授業のふりかえり

授業を構想するうえで大切にすることは、児童の実態にあった指導である。本学級は長文読解を困難としている児童が多いため、「読むことになれる」ことを意識した指導を取り入れて児童一人一人が学習内容をしっかり把握したうえで授業に入っていきようにした。読むことに慣れ内容を理解させるために、朝の会や授業の導入で本文を範読し、児童自身にも何度も読ませるように取り組んだ。漢字の読めない児童にはルビをふらせ、安心して音読できるようにして内容も理解しやすくなるようにした。さらに、学習内容の重要な部分に線を引かせ、ペアや全体で確認しながら整理させることで要約活動がスムーズにできるように支援した。

本学級は自分の考えや、文章を書くことを苦手としている児童も多く、文章をまとめることやつなげることができずに学習が止まってしまう場面が多々あり、机間指導をしながら助言を与えていった。少しずつではあったが、理解を深め興味をもってとりくむことで要約文を完成させ発表することができた。

8 これからの授業デザインに向けて

読・・・スムーズに文章を読めない子が半数近くいて、家庭で音読している様子がまったくみられないので、授業で読む力を育てたいと思う。国語だけでなく、社会、道徳等の教科を通して音読の機会を増やし、読むことが「楽しい」と思えるように工夫をしていきたいと思う。

理解・・・学年相応の「語彙力」が身につけていない子が半数近くいて、授業中「どういう意味ですか?」といった質問がよく出てくる。そういった質問も大切にくり取り児童の理解力の向上に努めていきたい。
また、その一つ一つの対話が学力の高い子の助けに(補足として)もなると考えている。

書・・・黒板の字をノートに書くことを嫌う子が多く、高学年に向けて書く体力をつけるためにどの教科でもプリントをノートに貼らせるのではなく、板書をノートにまとめさせることを意識的に行っている。記述するスピードに差があるため、板書中は何度か読み上げながらスピードの速い子には深く考えさせる時間としている。また、その時間を使い記述の遅い子に、いかに授業に興味をもたせるか、心をつかむための机間指導を行い「やらない子」をつくらぬよう、導入・展開の方法を積極的に考え、今後も継続して取り組んでいきたい。

単元プランシート

学校で育てたい資質・能力

小学校第5学年

【単元名】作品の魅力を交流し、宮沢賢治作品を読み広げよう(11時間扱い)

単元目標

知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性
① 比喩や反復などの表現の工夫に気づくこと。…(1)ク	① 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。…C(1)エ	① 登場人物の相互関係や心情、場面ごとの描写を読み取ろうとしている。
② 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくこと。…(3)オ	② 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。…C(1)カ	② 作品の魅力をリーフレットにまとめ、交流し、作品を読み広げようとしている。

働かせたい見方・考え方

宮沢賢治作品を読み広げるという目的に応じて、様々な表現の特徴を探り、まとめることを通して作品を紹介する。

単元構想

前単元:『いつか、たいせつなところ』『大造じいさんとがん』

- 『いつか、大切なところ』を読み、表現の工夫を読み取りながら、登場人物の心情を想像する。
- 『大造じいさんとがん』を読み、「表現と効果」や「やま場」について考え、それらを活かして登場人物の心情の変化について考える。



段階 日付	学習活動(□)と児童生徒の反応(○)	学習を支える教師の働きかけ	評価・他教科
1	学習の見通しをもつ ○宮沢賢治はどんな人だろう。○どんな物語なのだろう。 □「大造じいさんとがん」の学習を振り返りながら、読み方の確認をしたり、リーフレットを作成し、魅力を紹介することを 知る。 物語のあらすじを捉える	・教師作成のモデルを提示し、ゴールの姿を具体的にイメージさせる。 ・リーフレットとパンフレットの違いを抑える。 ・平行読書を通して宮沢賢治の作品の魅力を紹介することを抑える。	思判表①
2	○あらすじを書くには何が必要か知りたい。	・「雪わたり」の全文シートを活用し、あらすじに必要な情報を整理する。 ・あらすじを個人でまとめる時間を十分確保し、交流を行う。	思判表②
3	□主な登場人物は誰か。人物像は? □いくつの場面があるか。 □あらすじをまとめる。 心に残った場面についてまとめる		・全文シートに心に残った場面に線を引かせ、名前を表示することで、全体での共有にいかす。
4	○自分の心に残った場面はあるよ。	・前時と同じように、全文シートを活用し、好きな表現に線を引く。視覚化することで全体での共有にいかす。 ・前単元での「情景描写」の効果について取り上げ表現の工夫についてまとめる。 ・「魅力」という言葉の意味について丁寧に抑える。 ・これまでの学習を振り返りながら賢治作品の魅力にせまられるようにする。 ・ICTを活用し、賢治作品の魅力が伝わるようなリーフレットの構成を考える。	知技①
5	□心に残った場面を確認し、交流する。 □やま場はどこか、考える。 表現の工夫についてまとめる		・互いの良さを学び合える授業を展開し、共感的人間関係の育成を図る。
6	○好きな表現を探そう。	・互いの良さを伝え合うことで自己肯定感を高めたり、次の学習への意欲づけにしたりする。	主②
7	□好きな表現をとりあげ、その理由をまとめ交流する。		主②
8	作品の魅力にせまる		主②
9	○作品の魅力はなんだろう。 □作品の魅力を文章にまとめ、交流するリーフレットを作成する		主②
本時 10	○魅力にせまるためにどんなリーフレットにしようか。 □リーフレットにまとめる作品を決め、作成するリーフレットを交流し、賢治作品の魅力を伝え合う		主②
11	○友達のリーフレットも読みたい □リーフレットを読み合い、良さを伝える □学習のゴールにたどりつけたか、自己評価を行う。		主② 知技②



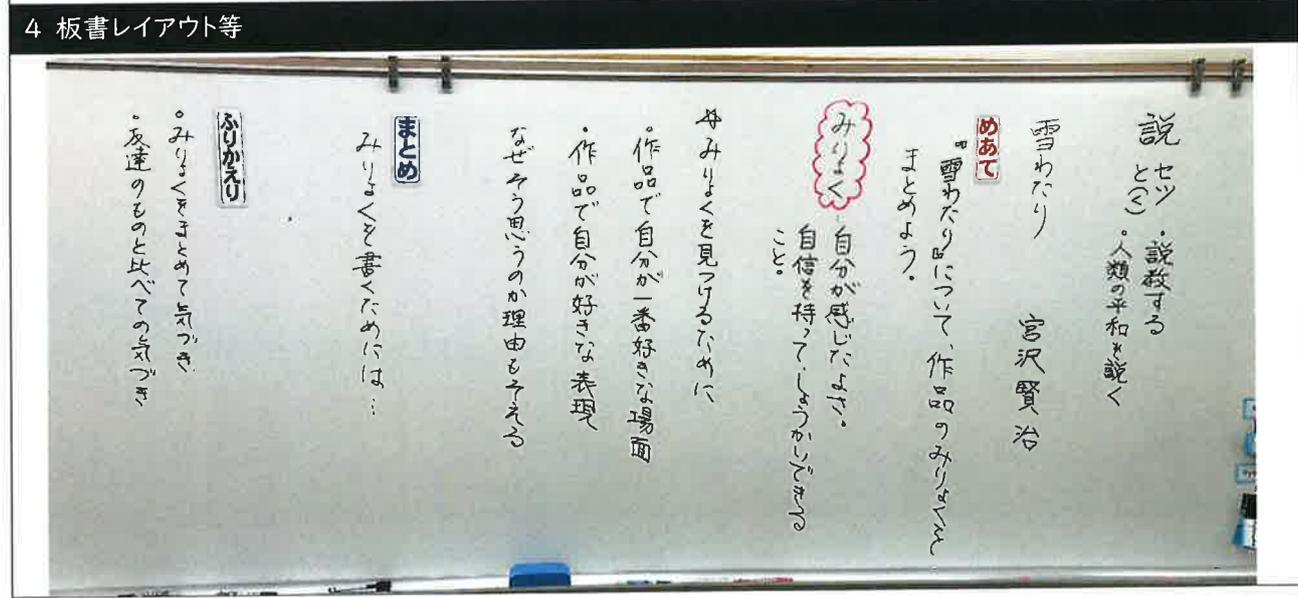
後単元:提案文を書こう

単元名 作品の魅力を交流し、宮沢賢治作品を読み広げよう

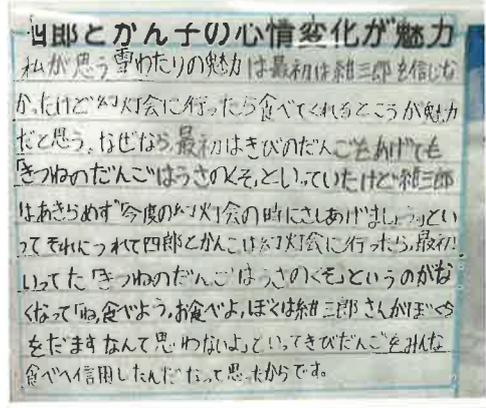
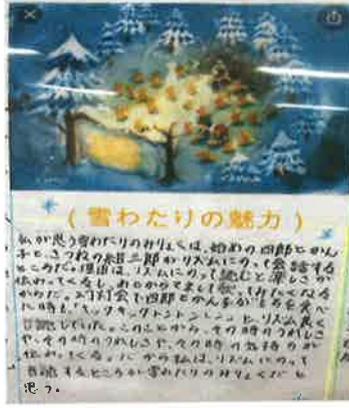
(8/11)

授業者:座喜味 美夏

1 本時のねらい	
『雪わたり』について作品の魅力をまとめることができる。	(評価場面方法) 場面:2.『雪わたり』の魅力を書く 方法:自分なりに感じた魅力についてまとめられているか(ノート)
2めあて、まとめ、振り返り	
(まとめ) 自分が感じたよさや紹介したいことが作品の魅力につながる。	(めあて) 『雪わたり』について作品の魅力をまとめよう。
← 正対 →	
(振り返り) ・自分の考えた魅力と違うところに魅力を感じる友達もいておもしろいと思った。 ・感じる魅力は、人それぞれ違う。	
3 本時の展開	
1. 前時までの学習を想起し、本時の学習のめあてを確認する。 めあて:『雪わたり』について作品の魅力をまとめよう	(時間配分) 導入 前時の振り返り:2分 めあて:3分
2. 作品の魅力にせまる 魅力を見つけるために 書くための視点 { ① 「魅力」とは何か。 ② 「魅力」を見つけるために	展開 ホップ:15分 ステップ:15分 ジャンプ:5分
「雪わたり」の魅力を書く 交流する	方策1との関わり 互いの良さを学び合える場を設定し、 共感的人間関係の育成を図る。
3. 学習を振り返る。 ・「魅力」をまとめた感想・気づき ・交流を通しての感想・気づき	終末 振り返り:5分



5児童生徒のノート ※写真を添付



6授業の振り返り

- ・授業を展開するにあたって、単元のゴールを明確にし、常にそこに向けて、授業が展開しているということを意識させた。今回は平行読書として『雪わたり』とは別に宮沢賢治の作品を準備し、AB方式で授業を展開した。児童は、『雪わたり』と自分で選択した賢治作品を交互に読み進めながら作品の魅力に迫り、またリーフレットを通して、作品を読み広げる意欲を見出すことができたと考える。また、ゴールを明確にするために、教師がモデルとなるリーフレットを作成しておくことで見通しを持って主体的に取り組むことができたと考える。
- ・児童が自分の考えや思いを共有する手段として、全文シートを作成し授業の様々な場面で生かすことができた。なかなか全体の場では発表できない児童も、全文シートを通して自分と同じ個所に魅力を感じている児童に直接話を聞きに行くことで、新しい発見があったり、共感したりという場面が見られた。

7これからの授業デザインに向けて

- ・書くことに苦手意識をもつ児童が多い中、書くことの手をつけるために、スモールステップでの授業を心掛け、全員がゴールにたどりつけるような授業構想を行う必要がある。また、児童が興味を持つICT機器を活用し、成果物を作成させることで、児童の興味・関心を失わずに授業を進めていくことができると考える。
- ・常に児童につけたい力を明確にし、ゴールに向かうことで、見通しをもった授業を展開することができると考える。
- ・児童同士が交流を行う場を教師が意図的に設定していくことで、児童の考えの幅を広げたり、様々な角度から物事をみる力、共感する力をつけたい。
- ・振り返りを大切にし、振り返りの視点を与えることで、毎時の自己評価を行うとともに次時への見通しをもつことにもつながると考える。

自力で読み取る子の育成「基本的な言語の習得」「学び合い」を通して

小学校第6学年

【単元名】円の面積(6時間扱い)

単元目標

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性
円の面積について、求め方や計算で求められることを理解し、円の面積を求める公式を用いて円などの面積を求めることができる。	図形を構成する要素などに着目し、円などの面積の求め方を図や式を用いて考え説明している。	円の面積の求め方を簡潔かつ的確な表現として公式として導いた過程をふり返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

働かせたい見方・考え方

円の面積の求め方を公式として導いた過程をふり返ったり、別の方法での公式の導き方を検討すること。

単元構想

1. 円の面積を求める公式を理解する。
2. 円の面積を求める公式を、半径×半径に着目して読み取り、円周率について理解する。
3. 多様な方法で円を含む複合図形の面積の求め方を考え、図や式を用いて説明することができる。



段階 日付	学習活動(□)と児童生徒の反応(○)	学習を支える教師の働きかけ	評価・他教科
1	□正方形に着目し、円のおよその面積の求め方を考え、見当をつける ○今まで学習した図形の面積の求め方が使えないかな。	・円に内接させた正方形の紙を使って操作させる。 ・正方形の約何倍の面積なのかをイメージさせる。	思判表 態
2	□正方形に着目し四分の一に分けた円の面積の見当をつけたり、円の中に正十六角形をかいて二等辺三角形にわけた面積の見当をつける。 ○1cm ² が何個分あるのかな。 ○二等辺三角形の面積のおよそ何倍かな。	・四分の一に分けた円のなかにある1cm ² を数えさせる。 ・円の中に正十六角形をかいて、16個の二等辺三角形に分けて面積を求めさせる。	思判表 態
3 本 時	□円を細かく等分して、既習の図形に近づけて面積の見当をつける。 □円を求める公式を、半径×半径×円周率で求められることを考える。 ○長方形や平行四辺形の面積なら求めることができる。	・円を等分した紙を操作させる。 ・長方形の横の長さは、円周の半分の長さに等しいことに気付かせる。	知技 思判表
4	□円を含む複合図形の面積の求め方を考え、図や式を用いて説明する。 ○面積が求められる図形を組み合わせて、足したり引いたりすればいい。	・デジタル教科書を操作して、複合図形をつくる過程を見せイメージさせる。	知技 態
5	□単元の学習を活用を通して、問題を解決する。 (学習のしあげ)		知技
6	□単元の学習を活用を通して、問題を解決する。 (学習のしあげ)		思判表



後単元: 角柱と円柱の体積

単元名 円の面積

(3/6)

授業者:長濱 健

1 本時のねらい

- ・円の面積のを求める公式を理解する。
 - ・円の面積を求める公式を、半径×半径に着目して読み取り、円周率についての理解を深める。
- (本時の評価規準)
 円の面積の求め方を考え、それを用いることができる。
 (発言・ノート)

2めあて、まとめ、振り返り

(まとめ) 円の面積は、形を変えれば今までの方法で求めることができる。
 (めあて) 円の面積は、どのように求めるのだろう。

← 正対 →

円の面積 = 半径 × 半径 × 3.14

(振り返り)

- ・円の面積は、円を等分して並びかえることで求められることがわかった。
- ・円を等分して、長方形にして面積を求めることができた。

3 本時の展開

1. 前時までの学習を想起し、本時の学習のめあてを確認する。
 めあて: 円の面積は、どのように求めるのだろう。
2. 円を8等分・16等分・32等分したおうぎ形を、今までに学習した図形に並びかえる。
 ・等分した円を実際に並びかえることで、円を長方形変形させていることに実感がもてるようにする。
 ・「円周」「半径」などの用語を意図的に用いたり、書き込んだりして公式づくりの意識付けをする。
3. 長方形の縦と横の長さに注目し、円の求め方を考える。
 ・電子黒板を活用して、円を細かく等分して並び替えると長方形に近づくことをとらえやすくする。
 ・変形しても面積は等しいことを話し合い、課題に導く。
4. 円の面積の求め方を考える。
 ・図と式とを行き来しながら、図形の部位を関連付けて考えられるようにする。
 まとめ: 円の面積は、形を変えれば今までの方法で求めることができる。
 円の面積 = 半径 × 半径 × 3.14

5. 練習問題に取り組む。

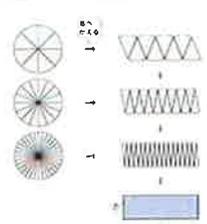
6. 学習を振り返る。

4 板書レイアウト等

めあて

円の面積ってどうやって求めるのだろう。

① 円をどんどん細かく当分して並びかえていくとどんな形に近づいていきますか



アの長さは円の半径と等しい。
 イの長さは円周の半分と等しい。
 変形前と変形後の面積は等しそう。

円の面積の求め方

円周の面積は「半径×円周の半分」で求められそう!

円周の半分とは、
 直径×円周率÷2
 =半径×円周率

整理整頓すると・・・
 半径×半径×3.14

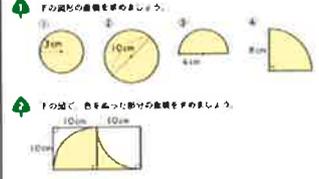
まとめ

円の面積は、形を変えれば今までの方法で求めることができる。

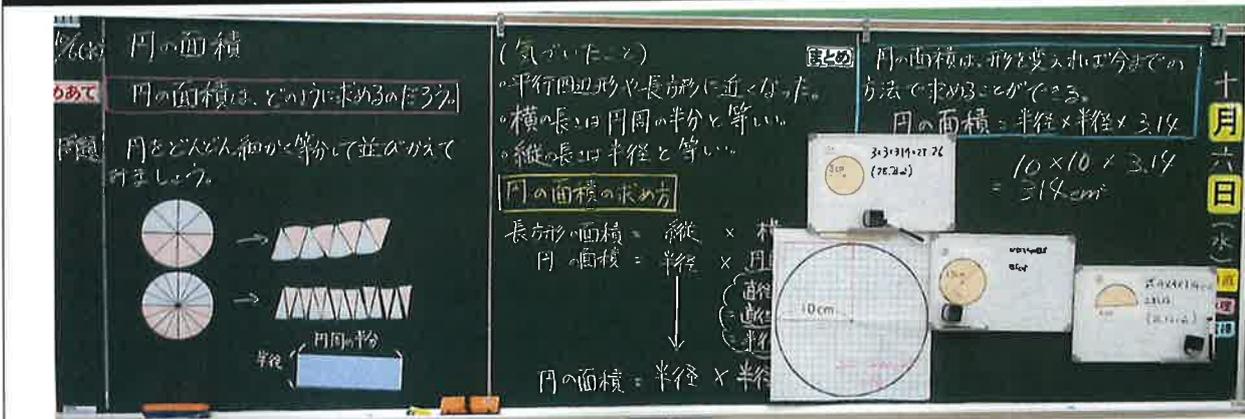
円の面積 = 半径 × 半径 × 3.14

練習問題

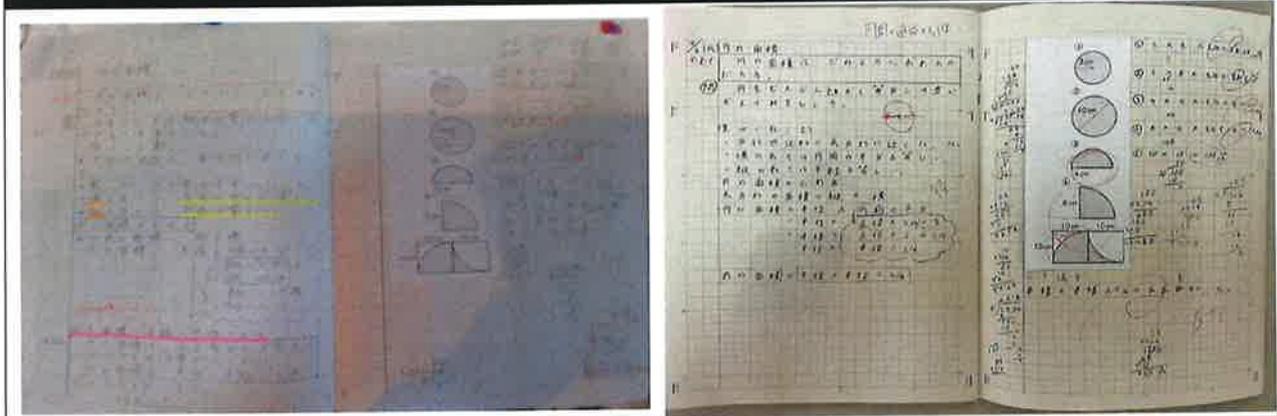
下の図形の面積を求めましょう。



5 授業の実際(板書) ※写真を添付



6 児童生徒のノート ※写真を添付



7 授業の振り返り

- ・曲線で囲まれた図形である円の面積の求め方を、既習の図形の面積の求め方を使って、どう求めていくのかにポイントを置いた。自分で変形させたり、動かしたりすることでイメージを持たせ、なぜ円の面積が長方形の面積の公式と結びついていくのかを理解させるようにした。また、長方形の横の長さが円のどの部分にあたるのかを考えると、図と式を行き来しながら丁寧に指導するように心がけた。
- ・全学年までに学習した算数用語も意識的に使うことで定着を図った。
- ・円の面積の公式を導くときに児童の発言が少なかったため、教師主体で誘導してしまったところがあったので、発問内容をもっと考えて授業を構想していきたい。

8 これからの授業デザインに向けて

- ・算数の苦手意識が高い児童が多いので、レディネステストをしっかりととり、足並みを揃えて新しい単元に入っていくように心がけたい。また、補習や宿題などを活用して、落ち込みが多いところもしっかりカバーするようにする。
- ・本時ではあまりできなかった、他者との交流の場を積極的に設けていき、多様な考えの交流をすることや、言語活動の充実を図ってきたい。
- ・児童が気付くことができる仕掛けや発問、その時間に身に付けることを時間内に収める授業デザインをしっかりと考えたい。児童が考える時間もしっかりと確保し、どうゴールに導くかを毎時間意識していきたい。
- ・今学習していることが実生活のどんなことに結びついていくのか、発見したり考えたりする活動も取り入れたい。今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度にも繋がるように工夫したい。

学校で育てたい資質・能力

小学校第6学年

【単元名】随筆を書こう(5時間扱い)

単元目標

知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性
①思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。…(1)オ	①目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすること。…B(1)ア ②筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。…B(1)イ	①進んで、心を動かされたできごとから書く事柄を選び、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。

働かせたい見方・考え方

随筆を書くという目的に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、文章の構成を考えること。

単元構想

前単元:筆者のものの見方や感じ方にふれ、随筆に親しもう

- 『枕草子』を読み、文章のリズムや響きを感じ味わい、描かれた情景や書き手の心情を想像する。
- 「薫風」「迷う」の二つの随筆を読み、随筆がどのような文章であるのかを理解し、事実と感想、意見などを意識しながら要旨を把握する。



段階日付	学習活動(□)と児童生徒の反応(○)	学習を支える教師の働きかけ	評価・他教科
1	随筆の書き方を学習する ○どうやって随筆を書いたらいいのかわかりたい。 □「薫風」「迷う」の学習を振り返り、随筆とは何かを確認する。	・教師作成のモデルを提示し、ゴールの姿を具体的にイメージさせる。 ・日記と随筆との違いを抑え、随筆を書くポイントを理解させる。	思判表①
2	随筆の構成を考える ○構成表はどのように作成したらいいのかわかりたい。 □ウェビング・マップを作成する。 □書く事柄の柱を構成表に書き込む。	・書くことのためにウェビング・マップを作成させる。 ・書くことの「柱」を付箋紙に記入させることで、構成を考えやすくさせる。 ・〈始め〉〈中〉〈終わり〉の三部構成にして、書いた付箋紙を貼らせていく。	思判表②
3	下書きを書く ○まずは書いてみる。 □構成表をもとに下書きを書く。 □下書きを読み合い、アドバイスし合う。	・400~600字程度の字数制限を与える。 ・構成表を見ながら書かせる。 ・書いた文章を読み合いアドバイスし合って、考えを広げたり深めたりさせる。	知技①
4	清書する ○アドバイスを参考にして、清書する。 □友達からもらったアドバイスをもとに清書する。 □書いた文章を読み返す。	・もらったアドバイスを清書に生かすよう伝える。 ・記述後には丁寧に読み返し、誤字等がないか確認させる。	主①
5 本時	読み合い、感想を交流する ○友達の随筆も読んでみたい。 □グループで随筆を読み合い、良さを伝え合う。 □学習のゴールにたどりつけたか、自己評価する。	・「随筆とは」を確認し、互いの文章が随筆になっているか、視点をもって交流させる。 ・互いの良さを伝え合うことで自己肯定感を高めたり、次の学習への意欲づけにしたりする。	主①

方策1との関わり
自己決定の場を与え、随筆のテーマを自ら選択させる。

方策1との関わり
互いの良さを学び合える授業を展開し、共感的人間関係の育成を図る。



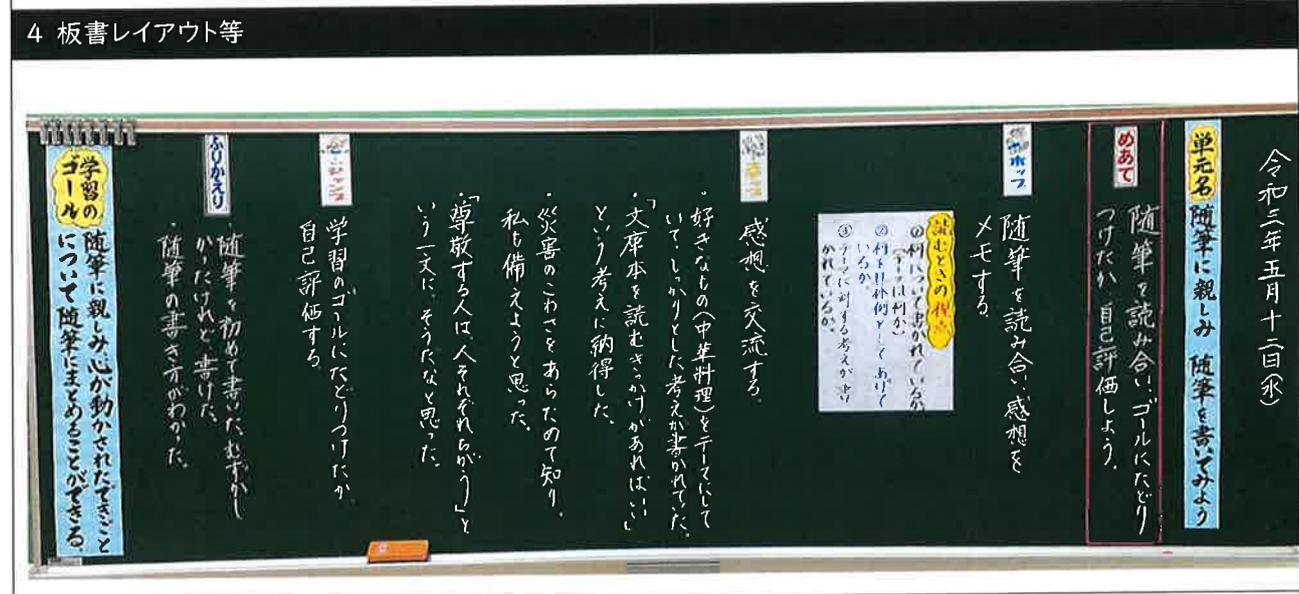
後単元:説得力のある文章を書こう

単元名 随筆を書こう

(5/5)

授業者:東盛 麻里

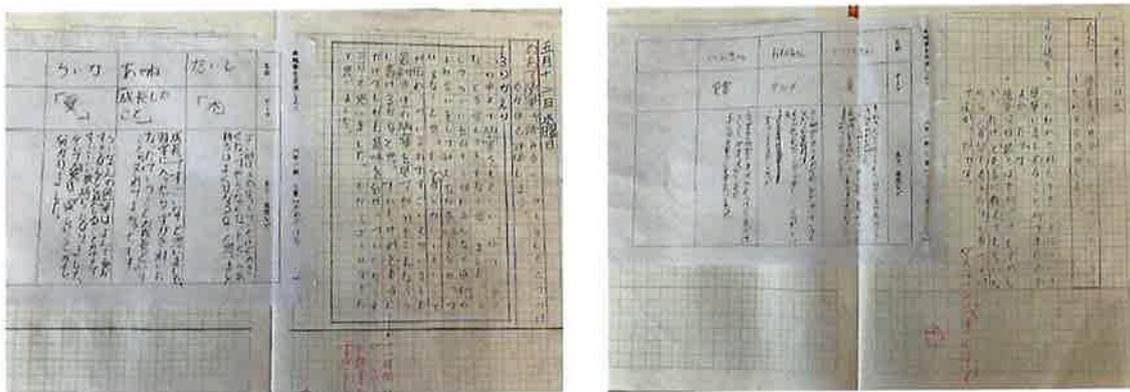
1 本時のねらい	
単元全体を通して、どんな力が身についたか、その力を今後どのように生かしていくかを意識させる。	(評価場面方法) 場面:3. 学習を振り返る 方法:学習のゴールにたどり着けたか、自己評価を記入させる。
2めあて、まとめ、振り返り	
(まとめ) ある事象に対する自分の考えを書くことで、随筆を書くことができる。	(めあて) 随筆を読み合い、ゴールにたどりつけたか、自己評価しよう。
(振り返り) ・随筆の書き方がわかり、テーマに対する自分の考えをしっかりと書くことができた。 ・日記との違いが分かったので、これから文章を書くときの参考にしたい。	
3 本時の展開	
1. 前時までの学習を想起し、本時の学習のめあてを確認する。 めあて:随筆を読み合い、ゴールにたどりつけたか自己評価しよう。	(時間配分) 導入 前時の振り返り: 2分
2. 交流する。 ホップ 随筆を読み合い、感想をメモする。 読みの視点 { ①何についてかかかれているか(テーマは何か)。 ②何を具体例としてあげているか。 ③テーマに対する筆者の考えが書かれているか。 ステップ 感想を交流する。 ジャンプ 学習のゴールにたどりつけたか、自己評価する。	展開 ホップ: 20分 ステップ: 7分 ジャンプ: 5分
3. 学習を振り返る。 ・【学習のゴール】を確認し、ゴールにたどりつけたかどうか自己評価する。 ・今回の学習で身に着けた力を今後どのように生かしていくか考える。	終末 振り返り: 8分



5 授業の実際(板書) ※写真を添付



6 児童生徒のノート ※写真を添付



7 授業の振り返り

- ・授業を構想する上で大切にすることは、スモールステップで授業を進め、一人も“置いてけぼり”にならない授業にすることである。1時間1時間のゴールまで確実にたどり着かせるよう、授業中は支援が必要な児童への支援・指導を心がけた。また、授業中ではゴールまでたどり着けなかった児童については、時間を作って個別指導を行い、次時には足並みを揃えて学習におかえるようにした。その結果、全員が随筆を書き上げることができ、学習のゴールにたどり着けたように感じている。
- ・書くことに対して苦手意識が強い児童が多いこと、また書くことに関するスキルに大きな差があることが本学級の特徴であった。そのため、随筆のテーマを児童自ら選択することで、児童が主体的に学べるようにした。また、個別最適な学びを目指して、個々の状況にあった指導を展開することを心がけた。

8 これからの授業デザインに向けて

- ・書くことの本を力をつけるために、書く活動を積極的に取り入れ、螺旋的・反復的に行うことが必要だと感じている。そこで、書く機会を意図的に作り、児童に確実に書くことのスキルを身につけさせ、自身の成長を感じられるような授業展開を目指していきたい。
- ・他者との交流の場を積極的に設けることで共感的な人間関係を育成し、他教科でも互いに学び合いながら学習できる素地を国語科で作っていきたい。
- ・身に着けたい力を身につけるためには、どのような言語活動を仕組むことが効果的か、児童の実態を考慮しながら考えて授業構想を練る。深い教材研究のもとに授業が成立するような一連の流れを作り、児童とともに授業を作り上げていきたい。それを目標として授業をデザインしていく。

授業プランシート (教科名 道徳) 月 日 () 対象学年：1・2・3 学年	
単元名 自分のスギちゃんを見つけよう。 A (4) 個性の伸長	
1 本時のねらい	
たくさんのすぎちゃんを見つけて、自分の中にいるスギちゃんを知る。	(評価場面・方法) ふりかえりシート A: 自分に合った対処法を見つけることができた。 B: じぶんのすぎちゃんをみつけることができた。
2 めあて、まとめ、振り返り	
(まとめ) 自分のすぎちゃんがみつかったね。	(めあて) 自分のすぎちゃんをみつけよう。
3 本時の展開	
2分	学級担任による前ふりを聞く。
6分	1. いろいろなすぎちゃんの名前を考える。 ・イラストの提示 ・すぎちゃんの名前を考えよう。「〇〇すぎちゃん」
2分	2. 本時のめあてを確認する。 <u>めあて</u> じぶんのすぎちゃんを見つけよう。
6分	3. 自分のスギちゃんを見つける。(ワークシート配布) ・絵の中から自分のすぎちゃんを選んでみよう。 ・すぎちゃんなしの児童→「〇〇すぎちゃんにならないように、どうしているの?」
15分	4. スギちゃんが出てきたときの対応手段を教える。 ・すぎちゃんが出てきたらやってみよう。 クールダウン その場から離れる 深呼吸 先生に話をする お水を飲みに行く 散歩する 目を閉じる(黙想) 自分に言い聞かせる 好きなことをやる(絵本を読む)
3分	5. まとめをする。 <u>まとめ</u> 自分のすぎちゃんが見つかってよかったね。 すぎちゃんが出ないように、なったらかっいいね!
8分	6. ふりかえり[学年ごとのワークシート]※3年生は対処法を考える。 ・児童に学習の振り返りを記入させる。
3分	学級担任による本時の内容の落とし込みとまとめをする。
4 板書レイアウト等	

単元名	自分のすぎちゃん	A (4) 個性の伸長
1	本時のねらい	(評価場面・方法) ふりかえりシート A: 自分に合った対処法を見つけることができた。 B: 色々なすぎちゃんの対処法を知ることができた。
2	めあて、まとめ、振り返り	
	(まとめ) ・自分は () すぎちゃんなので () をするとよいと思います。 ・ () すぎちゃんを見かけたときは () をするとよいと思います。	(めあて) どうすれば、自分や友達のすぎちゃんと上手く付き合えるのかな。(仲良くできるかな)
3	本時の展開	
2分	1.学級担任による授業の前ふりを聞く。	
2分	2.いろいろなすぎちゃんを知る。 ・イラストの提示	
4分	3.本時のめあてを確認する。 めあてどうすれば、自分や友達のすぎちゃんと上手く付き合えるのかな。(仲良くできるかな)	
10分	4.すぎちゃんとうまく付き合っている体験談を聞く。(理人先生) ①子どもの頃に親を困らせた話 ②特性を生かした前職の経験 ③靴下や肌着、長袖などの具体物を提示し、素材や着心地、汗の乾きやすさ、ムレ具合	
8分	5. 対処法など今、自分のすぎちゃんと上手に付き合っていることを伝える。 付き合い方によって楽しくなれることを知ってもらう。	
6分	6.グループ学習をする。 ・各グループですぎちゃんカードを選び対処法をグループ別に考える 【怒りすぎ、いじわるすぎ、忘れすぎ、ぼーっとしすぎ、大きな声出しすぎ、気になりすぎ、動きすぎ、散らかしすぎ】 (クールダウン その場から離れる 深呼吸 先生に話をする お水を飲みに行く etc) ・小型ホワイトボードに考えた対処法を記入し、黒板に掲示	
6分	7.自分のスギちゃんを見つける。※発表はさせない。 ・絵の中から自分のすぎちゃんを選ぶ ・自分のすぎちゃんとの付き合い方や対処方法を考える (一人学習) ※すぎちゃんなしの児童→「〇〇すぎちゃんにならないように、どうしているの？」	
4分	8.まとめをする。 ・机間指導で見つけた、良い付き合い方の紹介 まとめ・自分は () すぎちゃんなので () をするとよいと思います。 ・ () すぎちゃんを見かけたときは () をするとよいと思います。	
4分	9.学級担任による本時の内容の落とし込みとまとめをする。	
5分	10. ふりかえりをする。[学年ごとのワークシート] ・児童は学習の振り返りを記入する。	

4 板書レイアウト等

